

MUC

STUDY ABROAD MANUAL 2021



宮崎国際大学 海外研修の手引き

令和3年度

目 次

はじめに	1
I. 海外研修の概要	
1. 海外研修プログラムについて	2
2. グローバル教育センターの業務内容について	3
3. 海外研修先大学について	3
(1) 研修先大学の選考基準	3
(2) 研修先の安全性	3
(3) サイトメンター	5
4. 海外研修履修要件について	5
(1) 履修コース概要および単位	5
(2) TOEICの点数	5
(3) ポートフォリオ	5
(4) 成績	6
5. 海外研修計画について	6
(1) 海外研修スケジュール	6
(2) 海外研修への出発	7
6. 海外研修の準備について	7
(1) 海外研修先大学の選択	7
(2) 海外研修先大学の決定	8
(3) 海外研修の申込手続準備とスケジュール	8
a. レントゲン撮影	8
b. パスポート	8
c. TOEFLテストスコア	8
d. 写真	9
e. 研修先の決定	9
f. 海外研修先大学への申込み	9
g. 結核と予防接種の証明	9
h. 学生ビザの申請	9
①学生ビザ申請の有無と入国に必要な書類や手続き等	10
②入国時に必要な書類	11
③預金残高証明書	11
7. 海外研修期間中の健康管理について	12
(1) 医療保険	12
a. MIC指定海外留学保険	12
b. オーストラリア及びニュージーランドへ行く学生の保険	14
c. 研修先大学に独自の保険がある場合	14
(2) 研修先大学の医療サービス	15
(3) 現在健康に問題がある場合(持病等)の対応	15
8. 旅行計画の作成について	15
(1) 航空券の購入	15
(2) 研修前後の計画	16
(3) 自動車の運転	16
(4) 金銭について	17
<現地で銀行口座を開く>	17
<送金方法>	17
海外専用プリペイドカード	17
<カード類等について>	17
(クレジットカードについて)	17

9.	海外研修事前指導セミナーについて	18
	＜各研修先でのオリエンテーションについて＞	18
10.	宿泊施設について	19
	＜ホームステイに関する留意事項＞	19
	1) ホームステイの利点と欠点	19
	2) ホストファミリーでの食事	20
	3) 通学等	20
	4) 問題の対処	21
11.	カルチャーショックについて	21
	＜海外研修を終えた学生からのアドバイス＞	22
12.	起こりうる典型的問題と不満について	22
13.	学内研修について	23
14.	グローバル教育センター長と保護者のミーティングについて	23
	(1) 三者面談	23
	(2) 保護者説明会	23
15.	緊急連絡先について	24
16.	海外研修単位取得に係るガイドライン	25
	＜ポートフォリオ（諸課題集）について＞	25
	(1) 英語セクション	25
	(2) 自由研究セクション	25
	(3) 地域研究セクション1 & 2	26
	(大学の正規授業を受講する場合)	26
	＜重要事項＞	27
I.	参考資料－1	
	1 在日公館リスト	28
	2 在外公館リスト	30
	3 荷物と郵送について	32
	(1) 手荷物	32
	(2) 郵送	32
III.	参考資料－2	
	各研修先大学の紹介	33
	オーストラリアおよびニュージーランド	34－38
	カナダおよびアメリカ合衆国	39－49
	イギリス	50－51
IV.	参考資料－3	
	令和元（2019）年度海外研修先大学諸情報リスト	52－57
V.	参考資料－4	
	残高証明書について	58－59
VI.	参考資料－5	
	キャンパスパスポートについて	60－61
VII.	参考資料－6	
	シムカードについて	62－63

はじめに

国際教養学部 学部長 アンデルソン・パッソス

国際教養学部の教育は、学生諸君が優れた日本語・英語、両語の高い語学力及び高い思考力を身につけることによって、21世紀において有用な人材となる手助けをすることをその目標と考えております。その実践の結果として、本学の学生は、世界の文化に対する理解を深めつつ、日本人としての自覚を持った青年として成長していきます。

学生の本学における1年次は、リベラル・アーツ（人文・社会科学系科目）の諸領域に対する基礎的理解を育むこと、また「英語で学ぶことに慣れる」ことに主眼においてそのプログラムが組まれています。

2年次前期では、学生は比較文化の枠組みを学び、そして後期の海外研修において、その学んだことを海外で実体験を通して深く理解し、自らの研究及び実生活に応用していきます。ですから、帰国し3年次に進む際には、彼等は英語を十分に使えるようになっているのみならず、各自海外研修で得た経験をその後の専門教育の授業にも活かせるようになっているのです。

本学の教育哲学の中核でありますアクティブ・ラーニング（能動的・主体的学習法）は、学生に授業で学んだ諸概念を実際に使い、応用することを求めています。海外研修という経験は、実はこのアクティブ・ラーニングという考え方の最も具現化したものなのです。つまり、本学の授業は、学生が海外の経験を最大限に生かす方途を身につかせ、そしてそこで得た経験は、次に帰国後の彼等の学習に活かされることになるのです。

この学問的学習と世界での実体験の組み合わせこそが、本学の教育の中核と言えます。私をはじめ教職員一同、海外研修から戻ってきた学生の中に新しく芽生えた自信、向上した人間性、あるいは、物事に対するひたむきさ等、前には見られなかった新しい個性を見る時、一応にこの上ない喜びを感じざるを得ません。

I. 海外研修の概要

入学後1年半の課程を終えた後、学生は、原則、英語を母国語としている国の大学へ海外研修に出ます。海外研修の主な目的は以下の通りです。1) 実践的英語運用能力の育成(実践英語力の育成)、2)異なる言語、文化、価値観を乗り越えて建設的人間関係を構築することができるコミュニケーション能力と協調性の育成(グローバルコミュニケーション能力の育成)、3)それら培った能力を活用し、自ら見いだした課題を考察し(課題発見・考察能力の育成)、4)自分なりの結論を導き出す思考能力の開発・育成(クリティカル・シンキングの育成)。学生は英語の授業で自らの英語力を磨きつつ、滞在する国・地域を理解する努力を重ね、そして、それらを活かし、自らの研究課題に基づき一編の研究論文を作成することになります。

1. 海外研修プログラムについて

海外研修プログラムには以下の3つのタイプがあります。

1) メインプログラム

海外研修のフラッグシップ(中心的)モデルです。研修先大学は英語圏5カ国(アメリカ、カナダ、イギリス、オーストラリア、ニュージーランド)に15大学が用意されており、主に8月から9月にかけて渡航し、本学の2年次後期にあたる1学期間(約16週間)をホームステイしながら研修先大学(英語集中課程に所属)で学びます。研修先大学のプログラム開始日から終了日迄の期間を「海外研修期間」と呼びます(通常8月中旬から12月中旬迄)。教育効果(英語学習、コミュニケーション能力、多文化理解等)という点では最も優れたプログラムであることから、やむを得ない事情がない限り、2年生全員が本プログラムに参加します。

プログラム終了から次年度4月の3年次開始迄3ヶ月強ありますが、この期間はさらに英語あるいは異文化を勉強するいい機会でもあります。予算・安全等をよく検討した上で、可能であれば有意義にこの期間を過ごしてもらえればと思います。ただし、研修後の期間はあくまで個人の責任において過ごすこととなりますので、くれぐれも無理することなく、健康・安全第一に計画を練ってください。研修後の過ごし方については、グローバル教育センターに相談してください。

2) ハイブリッドプログラム

やむを得ない理由により長期の海外研修ができない学生に対し、学内での研修を2ヶ月、海外での研修を2ヶ月とした海外留学ショートプログラムが提供されます。学内研修は10月から始まり12月まで、そして、海外研修は翌年の1月から3月までの約2ヶ月間となります(研修先大学によって期間は多少異なります)。令和2年度現在、本プログラムの海外研修先大学(定員各8人)は、アメリカのソノマ州立大学、カナダのビクトリア大学の2大学のみとなります。

*研修先大学は変わる可能性があります。

3) アジアプログラム

アジア(韓国あるいは中国)に興味がある学生、若干名に対し、要件(成績、英語力等)を満たせば、本学の交換留学提携校である韓国のヨンナム大学、あるいは、香港のセンテニアル大学において海外研修を行う機会を提供します(英語力の要件は、ヨンナム大学でTOEIC600点以上、センテニアル大学でTOEIC750点以上となります)。本プログラムは他のプログラムとは異なり、英語あるいは英語圏の文化の理解を主な目的とはせず、隣国の韓国あるいは中国、そしてアジアへの理解を深め、今後国際社会で活躍したいと考えている学生に対し、早い時期からグローバルマインドを形成する機会を提供するためのものです。そのため、研修先大学では、英語科目(2科目)の他、正規科目(アジア研究等)3科目の履修が求められます。

*本プログラムは交換留学協定による派遣となるため、研修先大学での授業料は免除されます。

以下の項目は海外研修メインプログラムを念頭に記載されています。ハイブリッドプログラム及びアジアプログラムについては、必要に応じて個別に説明を行います(ちなみに、令和元(2019)年度はハイブリッドプログラム、アジアプログラムとも参加者はいませんでした)。

2. グローバル教育センターの業務内容について

- 海外研修先大学のパンフレット等を用意し、海外研修先大学選定の相談、および指導を行います。個別面談・指導も実施します。
- 学生の英語力、性格等も考慮し、どの英語教育プログラムが参加可能か、あるいは向いているかについて適切なアドバイスを与えます。
- 外国での生活費、気候、レクリエーション、ホームステイ、環境、英語授業のプログラム等の情報を提供します。
- 学生ビザ、医療保険、空港への出迎え、住居、その他海外研修に必要な諸手続のお手伝いをします。
- 経費効率のよい旅行計画を立てるためのアドバイスをします。
- 海外研修期間前後の活動（小旅行等）について相談に乗ります。
- 出発前の事前指導セミナーにおいて、課題の説明・指導はもちろん、海外における安全と生活、異文化理解、ホームステイにおける留意点等、多様な指導を行います。
- 海外研修期間中、適宜学生及び研修先大学担当者と連絡をとり、状況の把握を行う一方、必要があれば適切な対応を行います。
- 海外研修期間中の学業成績を確認し、その結果を学部長に報告します。

3. 海外研修先大学について

(1) 研修先大学の選考基準

主に以下の5つの基準をもとに海外研修先大学を選択しています。

- 1) 大学及び大学所在地域の安全性
- 2) 研修先大学及び英語授業のプログラムの質
- 3) 入学者に求められる英語力（TOEIC や TOEFL IBT で判断）
- 4) プログラムの期間及び入学時期と本学の学年暦との整合性

また、他の基準としては以下のものがあります。

- 国際空港への交通の利便性
- 宿泊施設（ホームステイ先）の確保
- 大学所在地の魅力（観光地等へのアクセス）
- 他国の留学生と接する機会の有無

(2) 研修先の安全性

予期せぬことがいつ起こるやも知れない現代、安全については私達の誰もが考えなければならないことです。完璧な安全はどこにも存在しません。私達が海外研修先大学を考える際にまず考慮したことは、大学が比較的 안전한場所にあるかということ、そして次に、大学が学生の安全管理に十分配慮し、それなりの対策をとっているかということです。本学が研修先を選択する際には、その点に留意した上で研修先の選択を行っています。

また、出発準備の一環として、学生に対し安全についての指導を行いますが、海外研修先大学においても、到着するとすぐ、まず安全のためのオリエンテーションが行われ、安全に関する指導が行われると同時に、緊急連絡先等重要事項の周知徹底がなされます。

どんなに準備をしようとも、あるいは指導がなされようとも、結局は学生自身が常に十分な注意を払って行動することが何よりも重要なことです。無責任な行動は絶対に取らぬこと。そして、もめ事になるようなことには絶対に加担しないこと。これらが最善の安全策といえるでしょう。

なお、外務省では、海外に渡航する日本人の安心と安全のため、2種類の渡航登録サービスを提供しています。一つは、外務省海外旅行登録、通称「たびレジ」というものと、もう一つは、在留届電子届出システム「ORRnet」というものです。登録している場合には、必要に応じて、在外公館から緊急一斉連絡メールなどが届きます。海外での思わぬトラブルを未然に防ぐために、必ず

登録してください。なお、旅券法第16条により、外国に住所または居所を定めて3ヶ月以上滞在する日本人は「在留届け」を提出することが義務づけられています。この届け出は、実際に現地に行った後に行うものですので、住所等が決まりましたら、外務省の「在留届電子届出システム(ORRnet)」サイトから在留届を提出してください。以下がそのサイトのバナーです。



上記バナーをクリックすると、以下のサイトに行きます。基本、「たびレジ」は3ヶ月未満の渡航を予定している人が対象であり、3ヶ月以上の海外滞在を予定している本学の学生は、在留届を「ORRnet」から提出することになります。

海外へ渡航される皆様へ

「たびレジ」に渡航予定を登録する ▶

たびレジ
外務省海外旅行登録「たびレジ」

例えば…

- ☑ 家族で2週間海外旅行に行くことになった
- ☑ 1ヶ月間海外出張することになった
- ☑ 修学旅行で5日間海外に行くことになった
- ☑ 海外赴任中、隣国に視察に行くことになった

3ヶ月未満の渡航を予定している方 >>

「ORRnet」に滞在予定を登録する ▶

外務省
ORRnet
Overseas Residential Registration
在留届電子届出システム「ORRnet」

例えば…

- ☑ 海外に転勤になった
- ☑ 海外に永住することになった
- ☑ 半年間留学することになった

3ヶ月以上の滞在を予定している方 >>

外務省では、海外に渡航される皆様の安心と安全のため、2種類の渡航登録サービスを提供しています。登録して頂いた方には、在外公館からの緊急一斉連絡メールなどをお届けすることができます。海外での思わぬトラブルを未然に防ぐため、是非ご利用ください。

* 旅券法第16条により、外国に住所又は居所を定めて3か月以上滞在する日本人は、「在留届」を提出することが義務付けられています。
* 現在、外国にお住まいで既に在留届を提出された方も、別の国へ旅行や出張する際には「たびレジ」をご利用ください。

[海外安全ホームページへ](#) [外務省ホームページへ](#)

「在留届」が提出されていないと、在外公館は皆さんが外国に居住していることを知り得ません。例えば、大災害の時や事件、事故の時、「在留届」があれば安否の確認、緊急連絡、救援活動、留守宅への連絡等を迅速に行うことができるわけです。もちろん、本学では、グローバル教育センター、研修先大学(本学担当者)、ホストファミリー及びその関係者、本学指定留学保険会社である東京海上日動火災(株)及び東京海上日動リスクコンサルティング(株)等が連携して危機管理情報を共有し、必要に応じて大学の危機管理体制のなか、必要なあらゆる対応を適切に取ってまいりますので、安心してください。

(3) サイトメンター

各研修先大学には、「サイトメンター」と呼ばれる本学学生のための担当者がいます。このサイトメンターは、本学の教育プログラムや学生のニーズをよく理解している研修先の教員または職員です。学生は研修中にサイトメンターと定期的に会い、ポートフォリオ（後述）の作成指導を受けるとともに、日常の様々なアドバイスを受けることができます。

4. 海外研修履修要件について

(1) 履修コース概要および単位

SA201 英語 (ESL) (6単位)

英語の口語表現、読解、作文、聴き取り等の集中授業。学生は英語力に応じてクラス分けされます。

SA202 自由研究 (2単位)

自らの研究テーマを設定し、ライブラリーリサーチ（図書館での資料検索および文献調べ）やフィールドワーク（研究対象の観察、地域住民・学生への聞き取り調査やアンケート等）を通して独自の研究論文を作成します。

SA203 地域研究 (6単位)

研修先地域あるいは国の理解を深める目的に合致する科目(選択科目)の受講、自身の体験（ボランティア活動、旅行等）や観察を通して得た滞在国・地域に対する新たな知見を、レポートやエッセイにまとめます。

海外研修総単位数：14単位

(2) TOEIC の点数

海外研修先大学の選定にあたっては TOEIC テストの得点が重要な指標となるため、学生は、基本、1年次後期（1月）に行われる TOEIC テストを受験することが求められます。また、海外研修後は4月初旬に再度 TOEIC テストを受験してもらいます。後者は英語力における海外研修の成果を測るためのものです（TOEIC テストの費用は本学が負担します）。なお、3年次進級要件の一つとして、TOEIC500点（または TOEFLIBT45点）が設定されていますので、海外研修前（あるいは海外研修中）にその点数を取得していない学生については、翌年の3月に TOEIC テスト受験の機会を提供します。

(注意)

1. 学生は、原則として海外研修先大学の集中英語プログラム（呼称は大学により異なる）に所属することになります。
2. ただし、TOEFLIBT の得点が一定以上（研修先によって異なる）ある学生は、各大学のプログラムにおける科目の選択の幅が広がります（正規授業の聴講が可能になる場合があります）。*正規授業を受けたい学生は、必ず TOEFLIBT を受験しておいてください。
3. 研修先大学は、各プログラムの参加要件及びグローバル教育センター長の指導・許可により最終決定されます。

(3) ポートフォリオ

海外研修中に、各学生は「ポートフォリオ」を作成します。これは「英語」「自由研究」「地域研究」の枠組みの中で行った学修（含、選択授業）及び諸活動（サービス・ラーニング/インターンシップ、ボランティア活動）等の集大成となります。15,000ワード（40ページ相当）以上の自作のエッセイや論文を作成し、提出します。写真や観光パンフレットなどもこの中に含めることはできますが、学生は自分で書いた文章で 15,000ワード（40ページ相当）以上のポートフォリオを作

成することが求められます。学生は、このポートフォリオを海外研修終了時まで作成し、サイトメンターに提出します。完成したポートフォリオは、サイトメンターからチェックを受けた後、学生自身により自らの Mahara にある ePortfolio にアップロードされ、国際教養学部長によって評価されます（詳しくは p25～27 参照）。アップロードの最終締切は、2022 年 1 月 31 日午後 11 時 59 分 59 秒（日本時間）です。

(4) 成績

海外研修科目の成績は、合格(P)/不合格(F)の2つになります。以下の2つの基準で判定します。

1. 研修先で登録したすべての科目をパスすること。成績はプログラム終了時にグローバル教育センター長に送られてきます（全てのプログラムで、科目をパスするためには、最低出席回数が規定されています）。
2. 研修先のサイトメンターが定めた期限までにポートフォリオを完成させ、2022 年 1 月 31 日午後 11 時 59 分 59 秒（日本時間）までに Mahara にある自らの ePortfolio にアップロードすること。

5. 海外研修計画について

(1) 海外研修スケジュール

〈1 年次後期〉

- 第 1 回海外研修説明会（2020 年 12 月 13 日 [日]）
- 個別面談・指導（翌年 1 月～2 月、及び冬季休業期間）
*研修先大学の選択に係わる相談、学習指導、及び携帯番号、住所、保護者等情報の登録
- 研修先大学選択のための資料・情報チェック（ウェブ及びグローバル教育センターを利用
ー12 月中旬～）

〈2 年次前期〉

（日程関係）

- パスポート※、証明書用写真 1 枚（4.5 x3.5 cm）の提出（2021 年 4 月 4 日（日）まで）
※パスポートは帰国予定日から 6 ヶ月の有効期限があるもの。
- 第 2 回海外研修説明会（4 月 4 日（日））
- 海外研修先大学選定会（4 月 14 日（水）（予定）：当日 2 年生は全員 2-307 教室にて研修先を選択します。）*具体的日程についてはまた連絡します。
- 海外研修先大学変更期間（4 月 15 日（木）～20 日（火））
- 海外研修先大学の最終決定（4 月 20 日（火）17：00）

（手続き関係）

- 研修プログラム及びホームステイの申込み、学生ビザ申請（研修先毎に手続きの日程を連絡します。）
- 緊急時対応者の決定（各学生は、研修先での緊急事態に備えて、パスポートを所持し、研修先まで行くことが可能な家族一人を相談の上決めておくこと。）
- キャッシュパスポート及び海外留学保険の申込み（全体会を開催）
- 航空券の予約・購入（旅行計画、予約、購入は各学生が自己の責任において行うこと。）
*渡航スケジュールはグローバル教育センターに必ず報告のこと。
- 海外送金方法の決定と必要な手続き（本学はキャッシュパスポートを推薦）
- 海外で使用する電話、海外から日本への連絡方法の決定・確保（海外 SIM カードを推薦）
- 予防接種証明書の取得（一部のアメリカ大学へ行く学生のみ）

（その他準備関係）

- TOEFL IBT(Internet-Based TOEFL)の受験
*TOEIC で高得点を取っている学生は、有料とはなりますが、できれば TOEFL IBT の受験を勧めます（研修先大学における正規授業受講許可が事前に受けられるため）。

- 海外研修プログラム終了後、3ヶ月強の旅行・学習計画の立案
*経済的かつ時間的に余裕があるようであれば、研修終了後継続して語学研修を続けることを勧めます。ただし、「海外研修」期間外は、大学は一切責任を負いませんので、あくまで慎重にプランを練って下さい（グローバル教育センターがアドバイスします）。
- 海外研修事前準備セミナーへの参加（ポートフォリオ作成に関する指導の他、異文化理解、安全対策、ホームステイ留意事項、入国・出国手続き等に関する説明・指導等が行われる。）
*出席しない、あるいは出席率が著しく悪い場合は、渡航許可を取り消します。
- 出発準備の確認（早期到着時の宿泊、空港出迎え手配等の確認を含む）
- 希望による三者面談の実施（事前予約要）

(2) 海外研修への出発

学生は多くの場合、本学の前期終了後の8月中旬から下旬にかけて、海外研修へ出発します。研修先によって授業開始時期は異なりますが、一般的にアメリカの大学は8月中旬、オーストラリア、イギリスの大学は8月下旬から9月初めにかけて、カナダ及びニュージーランドの大学は8月始めから下旬と、大学によって大きく異なります。

研修期間はどの研修先においても15～17週間ですが、1つの継続したプログラムである場合と、2つのプログラム、あるいはセクションが短い休みを挟んで組まれている場合もあります。

6. 海外研修の準備について

(1) 海外研修先大学の選択

学生はグローバル教育センターと相談・協議の上、研修先大学を決定します。海外研修センターには、カタログ類、プログラムの説明書等が置いてありますが、今は各大学のホームページの方が紙媒体よりも充実しているため、各大学のサイトをしっかり確認して情報を得てください。また、各大学の紹介をしている動画がYouTubeに多くありますので、そちらも参考にしてください。海外研修先大学を決めるにあたっては、自分なりのチェックリストを作成し、内容を十分確認後、優先順位をつける等工夫しつつ、効率よく決定作業を行ってください。

(チェックリスト項目例)

- 研修地（国、州、地域、市等）
- 英語の種類（イギリス英語、アメリカ英語、カナダ英語、オーストラリア英語、ニュージーランド英語）
- 気候・天候の違い
- 研修地の規模（大都会、小都市等）
- 生活および自然環境（自然、史跡、著名な文化施設等の有無）
- スポーツ施設、美術館、コンサート、ショッピングモール（生活関連施設）等の充実度
- 治安（町の規模が小さい程安全度が高いと一般的に考えられています。）
- 学費、宿泊費、生活費、旅行費用、その他必要と考えられる諸費用
- 大学キャンパスの規模
- 英語プログラムの規模
- TOEFL IBT の点数（一部の大学のみ）
- プログラムの期間と週当たりの授業時間（同一学費でもプログラムによって授業時間数が異なります。）
- プログラムの開始及び終了時期
- 自由研究の課題（自分の興味あるテーマとの関連で考慮）
- 旅行、自主的学習、ボランティア活動等の機会の有無

研修先を決定するにあたっては、家族や友人とじっくり話し合うことはもちろん、海外研修から帰国した先輩の体験談を聞くことを勧めます。また、決定前に各大学の特色を十分に吟味・理解しておくことが大切です。どの大学にもそれぞれの個性があります。学生にとってこの決定は困難なものですが、これは自分の人生に責任を持つことへの第一歩になるとの自覚のもと、悔いのない選択をしてもらいたいと切望します。

(2) 海外研修大学の決定

本学の海外研修は少人数派遣を前提としているため、各研修先大学につき原則 10 人までの派遣となります。

前述の通り、研修先大学選定期間は、4月5日(月)から14日(水)までの10日間であり、その後の変更期間が15日(木)から20日(火)午後5時までとなります。学生は4月14日(水)(予定)の指定時刻に2号館307教室に集合し、海外研修先大学選定会に参加します。選定会では、学生の名前が書かれたクジが無作為に引かれ、読み上げられます。そして、名前が呼ばれた順に希望する研修大学の登録を行います。原則1大学につき10人までという人数制限がありますので、すでに制限人数に達している大学には、それ以上名前を書き入れることはできません。制限に達した大学についてはキャンセル待ちリスト(ウェイティングリスト)を作りますので、できればその大学に行きたいと考えている学生は、まずはウェイティングリストに名前を記入し、その後、まだ席のある大学へ登録した上で、希望の大学のキャンセルを待つこととなります。該当大学にキャンセルが出て人数に空きが出た場合は、その名簿の順に登録できることとなります。なお、パスポート及びID写真等の提出物を4月4日(日)までに提出しなかった学生については、研修先選定会において通常の選択権がなくなります。これらの学生については、提出期限を守った他の学生全員が研修先を選んだ後にくじを引き、登録が可能となります。

前述の通り、4月15日(木)から20日(火)の午後5時まで、研修先大学の変更を受け付けます。但し、変更する大学が定員をオーバーしていない場合に限り、4月20日(火)午後5時に研修先選定期間は終了となり、研修先大学が最終決定されます。

(3) 海外研修の申込手続準備とスケジュール

研修先が決定次第、以下の準備に入ります。これらは、海外研修前の4月、5月に準備されなければなりません。

a. レントゲン撮影

4月(上旬)に本学で行うレントゲン撮影検査を受けること。研修先によっては検査結果の提出を求められることがあります(2019年度実績については、次頁、g.の表を参照)。学生は自身の健康管理のため、また結果の提出を要求されることを想定して、必ず検査を受けてください。アメリカでの研修を希望している学生については、レントゲン撮影の診断証明書を準備する必要がありますので、必ず受けてください。結核にかかっていないことを証明する書類を作成するために必要となります。

b. パスポート

パスポートは各自責任を持って自分で取得し、2021年4月4日(日)までにグローバル教育センターに必ず提出して下さい。すでにパスポートを持っている場合は、現地での滞在に十分な残存有効期限があるかどうかを必ず確認して下さい。国によっては学生 VISA 申請時や入国時に残存有効期限の制約がある場合がありますので、十分な注意が必要です。

例1：ニュージーランド学生ビザ申請には、滞在期間プラス3ヶ月以上の残存有効期限のあるパスポートが必要。

例2：台北を経由する場合、パスポートに6ヶ月以上の残存有効期限がなければ入国できない。

* 家族で緊急時対応者となっている方も、海外研修終了時まで有効なパスポートを持っている必要があります。

c. TOEFLテストスコア

TOEICの点数が高い学生(800点以上)で英語プログラム以外の授業(研修先大学の正規科目)

の履修に興味がある学生は、TOEFL IBTの受験を強く勧めます。なお、このことは研修先大学の選定に関わりますので、事前にグローバル教育センターとよく相談して下さい。

d. 写真

4.5cm×3.5cmの写真を1枚用意し、2021年4月4日(日)までにグローバル教育センターに提出して下さい。写真の裏には名前(アルファベットでフルネーム)を忘れずに記入して下さい(アメリカのビザを取得するためには、別途5cm x 5cm 背景白の写真が1枚、また、デジタル写真も必要となりますが、その指示は後日行います)。

e. 研修先の決定

2021年4月20日(火)午後5時をもって、研修先大学を最終決定します。

f. 海外研修先大学への申込み

研修先大学決定後、早い時期に申込みを行います。申込みは、大学によってウェブ上であったり、紙媒体であったりとまちまちです。その時期になると、グローバル教育センターがミーティングを開き、申込書類の作成にあたります。ミーティングの連絡は学内電子メール(Skyメール)を通して行います。研修先大学がアメリカの場合には、その際、預金残高証明書(英語表記)1通が必要となります(指示をしますので、指示を待って対応して下さい)。

g. 結核と予防接種の証明

アメリカの場合、3ヵ所の研修先大学で複数の予防接種を受けた事実やレントゲン撮影(結核検診)結果を証明する書類が要求されます。その様式は本学で作っていますので、それらの大学に行くことが決定した学生は、渡航前に予防接種を受けた証明(母子手帳による)を持って、本学指定の病院(しおもりクリニック(池田台加納バイパス沿い))に行き、当該様式に医師から署名をもらう必要があります。証明書(様式)作成に関しては、詳細な指示を行います。その証明(母子手帳にあるべき予防接種の記録)がない場合には、日本を出発する前か、または研修先大学において、それらの予防接種を受ける必要があります。証明が必要な大学は以下の通りです。

	結核(レントゲン)	MMR (はしか、おたふく風邪、風疹の3種混合) (2回接種要。麻疹と風疹に抗体がある血液検査の証明でも可。)
サンマルコス	○	○
アリゾナ	○	○
ソノマ	○	○

h. 学生ビザの申請

各研修先への手続きが終わると、研修先から学生ビザ申請に必要な書類が本学に送られてきます。グローバル教育センターではその書類を受け取り次第、ビザミーティングを招集し、学生ビザ取得に必要な書類を作成します。学生ビザ申請に伴う手続は国によって異なり、また随時改訂が加えられることが予想されますので、具体的な情報は、2021年4月以降に該当する学生に対して適宜連絡します。ちなみに、2019年度は次の通りでした。

① 学生ビザ申請の有無と入国に必要な書類や手続等 (2019年度)

<オーストラリア>*ビザが必要

- 入学許可 (Confirmation of Enrollment) 番号
- インターネット上での学生ビザ申請
*ビザはパスポートに貼付されるのではなく、代わりにビザ確認電子メールが届く。
- 学生あるいは保護者のクレジットカード情報 (種類、名前、番号、有効期限、セキュリティーコード) — \$ 575 のビザ申請料をインターネットで支払うために必要となる。
- 出席証明書 (以前オーストラリアに留学経験のある学生のみ。出席率 90%以上あることが必要)

<イギリス>*6ヶ月以内の滞在の場合には学生ビザ必要なし。

- 入国手続を行う空港 (初めて着陸する空港) で入国許可書が発行される。
- 6ヶ月以上の滞在を希望する場合は、早めにグローバル教育センターに相談すること。

<アメリカ>*ビザが必要

ステップ1: 申請書の準備

- 入学許可書 (I-20) *研修先大学が発行、学生の署名がなされたもの。
- 学生ビザ申請書 (DS-160、ウェブ上で作成)
- パスポート (オリジナル、滞在予定期間より 6ヶ月残存有効期限が必要)
- 写真1枚 (5cm×5cm、背景は白に限る) *作成場所は宮崎カメラ (赤江店) を推奨
- デジタルフォト (ウェブ上でビザ申請を行う時に必要) *宮崎カメラ (赤江店) を推奨
- 学生自身あるいは保護者のクレジットカード情報 (種類、名前、番号、有効期限、セキュリティーコード) —SEVIS (米国学生データベース) 登録料 350ドル、ビザ申請料 17,600円をインターネット上で支払うため。
- 預金残高証明書原本1通
 - 英文で作成されたもの (米ドルに換算して記載)
 - 滞在期間中の滞在費として十分な金額であること (最低 15,000ドル)

ステップ2: 面接を受ける

- 通常は個人での予約・面談となるが、本学の学生の場合は、福岡領事館でグループ予約・面談となる。日程等詳細は時期が来てから決定するが、7月上旬から中旬の予定である。面接に必要な書類はグローバル教育センターから直接領事館へ送付するため、学生は面接当日はパスポートのみ持参する。
- 事情があり他学生と別日程で面接を受ける場合は、個人で適切なアメリカ大使館、又は領事館での面接予約をインターネット上で行わなければならない。
- ビザは面接後、問題がなければ1週間後くらいに発行され、パスポートとともに本学に送付される。

<カナダ>*ビザは必要ないが、電子渡航認証 (eTA) の取得 (\$7) が必要。

- 入国手続を行う空港 (初めて着陸する空港) で入国許可書が発行される
- 6ヶ月以上の滞在を希望する場合は、早めにグローバル教育センターに相談すること。

<ニュージーランド>*ビザが必要

- 学生ビザ申請はインターネット上で実施
- 研修先大学からの入学許可証のコピー
- 研修費用支払い証明書 (MIC が全額を立て替えて支払い、支払い証明書を受領)
- 宿泊及び宿泊費用支払い証明書 (MIC が全額を立て替えて支払い、支払い証明書を受領)
- パスポート (オリジナル、滞在予定期間よりも3ヶ月余分に残存有効期限が必要)
- 預金残高証明書 原本1通
 - 学生本人の口座であること

- ▶ 預金残高は日本円で 90 万円以上あること
- ▶ 発行後 30 日以内のものであること
- ▶ 英文で記載され、ニュージーランドドルで換算された金額が記載されていること

② 入国時に必要な書類

7月に行われる出発前ミーティング時に詳しい説明を行います。以下がその書類等です。

<オーストラリア>

- パスポート（ビザは入国手続時にパスポートに貼付される）
- ビザ確認電子メールを印刷したもの
- 研修先大学からの入学許可証
- 復路航空券

<イギリス>

- パスポート
 - 研修先大学からの入学許可証
 - 預金残高証明書（必須ではない）
 - 復路航空券
- （注意）6ヶ月以上滞在する場合にはビザが必要

<アメリカ>

- パスポート（ビザはパスポートに印刷されている）
- 研修先大学からの入学許可書（I-20）
- 復路航空券

<カナダ>

- パスポート(eTA 登録済であること)
 - 研修先大学からの入学許可証
 - 預金残高証明書（必須ではない）
 - 復路航空券
- （注意）6ヶ月以上滞在する場合にはビザが必要

<ニュージーランド>

- パスポート（ビザは入国時に確認される）
- 研修先大学からの入学許可証
- 復路航空券

③ 預金残高証明書

研修中の経費負担能力を証明するためのもので、プログラムへの参加申請、学生 VISA 申請時に領事館に提出（アメリカ、ニュージーランド）、及び入国時（カナダ、イギリス）に提示する場合（必須ではない）もあります。研修費、滞在期間中の生活費に十分な額が必要です。グローバル教育センターの指示にしたがって、適切な金額の証明書を発行してもらってください。

銀行、信用金庫、郵便局のいずれでも、通常即日発行されます（有料。但し、入金と同時に発行されません）。

預金残高証明書は、発行後 30 日間のみ有効です。あまり早く取得しておくが必要な時に有効期限切れとなり、再度取りに行かねばなくなることがあります。指示に従って下さい。

証明書は原本でなければなりません。英文の証明書が必要ですので、金融機関には、くれぐれも英語で作成してくれるよう依頼してください。

印字される金額は日本円でも構いませんが、その場合は、金融機関担当者に、当日のレートで現地通貨相当額を併記してくれるよう必ず依頼してください。

できれば本人名義のものがいいですが、本人名義でなくても、家族の方のもので名字が一緒ならその方のもので構いません。しかし、その場合は、名義者本人が次のように記入しなければなりません。

例：

These Funds will be used in support of Hanako Kokusai (学生名)
Signed: Taro Kokusai (保護者名)
Date: June 15, 2021 (日付)

但し、ニュージーランドは本人名義の預金残高証明書でなければいけません。

預金残高証明書に必要な金額は国によって、また滞在期間によっても変わってきますが、2019年度の実績は次の通りです。

<アメリカ>

研修先プログラム申込時（5月）に1通、また、学生ビザ申請時（7月）に1通の、計2通が必要となります。同時に2通は取らないでください。基本、15,000ドル以上が必要です。

<イギリス>

滞在の長さにもよりますが、約4,500ポンド（約80万円）あれば十分です。ただし、これは絶対に必要なものではありません。入国時に入国審査官によっては十分な滞在費用を持っているかを聞く場合があり、その際に現金、クレジットカード等を提示してそれを証明でき、相手が納得すれば必要はありません。仮にそのような場面に遭遇することになった場合を想定して、財政証明書として持っていくというのもいい考えかもしれません。その際に提示する預金残高証明書は、イギリス入国前30日以内に発行されたものでなければいけませんので、注意が必要です。

<カナダ>

イギリスと同様、特に必要はありませんが、念のために持って行くのであれば、一月あたり2,000カナダドル、4ヶ月であれば、合計8,000カナダドル以上のものを持っていけばいいでしょう。

<ニュージーランド>

最低12,000ニュージーランドドル。学生ビザ申請時に必要です。

☆全研修先共通の重要事項：

1. 預金残高証明書は英文のもの。
2. 日本円と現地通貨両方での金額の記載が必要。現地通貨での換算金額は、基本、金融機関で記載してもらおうが、できない場合は自分で記入する（ニュージーランドは除く）。
3. 証明書が自分名義の口座でない場合は、上記の要領での記載（例参照）が必要（*ニュージーランドは必ず学生自身の口座が必要）。

7. 海外研修期間中の健康管理について

(1) 医療保険

海外研修期間中、全学生にMIC指定の海外留学保険への加入が義務づけられます。これは全学生の保険を一本化することによって、万が一事故等が発生した場合に迅速、適切な対応を行うためです。海外研修が終了した後も引き続き海外に滞在する場合は、その期間も含めて海外滞在全期間について保険をかけて下さい。

a. MIC指定海外留学保険（学研災付帯海外留学保険）

海外留学保険については、様々な観点から慎重に検討した結果、その経験の豊富さ（多くの大学の海外留学プログラムを担当）、世界的ネットワーク、24時間日本語電話サービス、現金不要で治療を受けられる「キャッシュレス・メディカル・サービス」その他多くのサービスが学生の海外滞在中の安全確保のためには必須と判断し、また本学との連携の効率性も考慮した結果、東京海上日動火災保険株式会社の海外留学保険を本学の海外研修・留学の際の指定保険としています。また、平成27年度からは、同保険会社の海外留学保険が学研災付帯海外留学保険となったため、

本学が実施する留学プログラムについては、通常の保険料が大きく割引されます。2019年度の割引実績は45.6%でした。保険対象項目としては、傷害、疾病、賠償責任、救援者費用、携行品など、海外留学保険としては必須の項目を全てカバーしています。2019年度の保険料金は、次の通りでした。*2021年度には変更が予定されています。

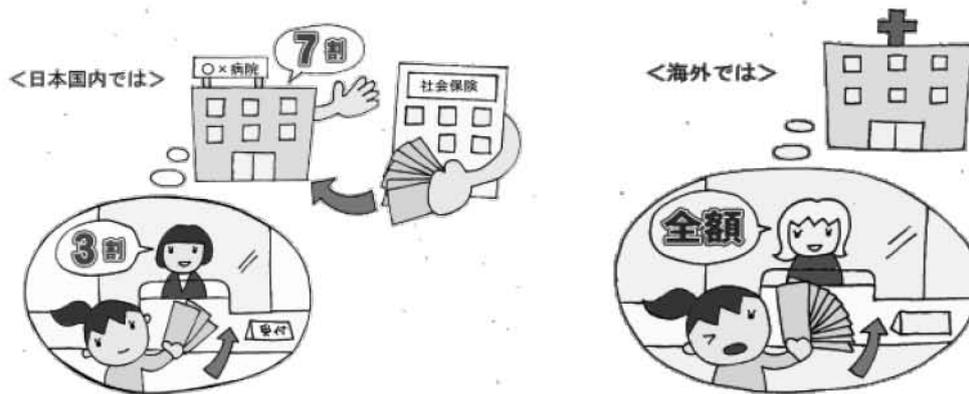
学研災付帯 海外留学保険	
傷害死亡	1,000万円
傷害後遺障害	1,000万円
治療・救援者費用*	無制限
疾病死亡	1,000万円
歯科治療費用	30万円
留学生賠償責任	1億円
携行品損害	10万円
緊急一時帰国	50万円
航空機寄託手荷物	10万円
航空機遅延費用	2万円
5ヶ月まで	49,020円
6ヶ月まで	59,550円
7ヶ月まで	70,250円
8ヶ月まで	80,940円
9ヶ月まで	91,890円

*上記「治療・救援者費用」における治療・救援者費用保険金額無制限とは、1回のケガ、病気、事故の支払限度額を無制限とするものであり、治療・救援費用を一生涯補償するものではありません。

*場合によっては治療時にその費用を直接支払わなければならない場合があります。その場合、後日治療明細（病院が発行した診断書）と領収書を提出して払い戻しを受けることになります（このような場合に備えて、VISAやMasterカードの携帯を勧めます。キャッシュパスポートもMasterカード機能が付いています）。盗難事故による損害を請求する場合には、盗難事件を警察署に届けて、警察署発行の盗難証明書を持ち帰る必要があります。なお、この保険には自動車運転者賠償は含まれていません。

Q. なぜ留学保険への加入が必要なのか？

A. 海外留学に必要な保険の中で最も重要な部分は、「治療・救援費用」の部分です。集中治療室に入れば、一晩で100万円前後の費用がかかることもざらです。次頁が日本と海外の違いです。



つまり、日本では治療費の3割を自己負担すればいいですが、日本の保険の適用がない海外では全額が自己負担となります。しかも、その費用は、ケガや病気の程度によりますが、日本に比べて極めて高額になります。例えば…

- Case 1：高速道路で対向車と衝突。大腿骨骨折、上腕骨骨折、鎖骨骨折など受傷しカナダで約3か月間入院の後帰国。治療費：約750万円
- Case 2：アクティビティー中に木から落ちて、背骨を骨折。治療費：約1200万円
- Case 3：ローラースケートで転倒し、硬膜外出血。治療費：約870万円
- Case 4：スキーに行き、事故で大腿骨を骨折。治療費：約400万円
- Case 5：カップラーメンを膝にこぼして火傷を負ったため病院へ。治療費：約35000円。

また、保険の内容によっては治療を断られることもあります。



海外は損害賠償については極めて厳しいので、他人の物を誤って壊してしまった時に頼りになる「損害賠償」保険も重要になります。また、携行品の紛失、破損についてもカバーされている方が安心です。

以上のような理由から、海外の大学での長期に渡る研修には、十分な内容を持った保険（海外留学保険）に加入することが義務づけられます。ほとんどの研修先大学では保険証書の提示が求められます。なお、保険加入期間は長めに設定しておくこと。使わなかった期間は、1ヶ月単位で返金されます。

b. オーストラリア及びニュージーランドへ行く学生の保険

オーストラリア政府は全留學生に対して、海外学生健康保険（OSHC）への加入を義務付けています（2019年度は、滞在期間によって異なりますが、ウォロンゴン大学では199ドルでした。）。しかし、この保険は、ほぼ医療費のみの保障となっており、また、旅行中の事故等については保障がありませんので、十分な保障内容とは言えません。そのため、本学の海外研修プログラム参加にあたっては、この保険と上記東京海上日動火災の海外留学保険の両方に加入してもらうことになります。

また、ニュージーランドも国として指定の保険への加入を義務付けていますが、本学指定の保険会社が政府に認可されているとの理由から、2019年時点では国の保険への加入の必要はありませんでした。

c. 研修先大学に独自の保険がある場合

大学によっては独自の医療保険への加入を義務付けている場合があります（2019年度実績ではアリゾナ州立大学、トンプソン・リバーズ大学、サイモン・フレーザー大学。）。しかし、各大学独自の保険は現地滞在期間のみをカバーし、出国してから現地に入るまで、現地での旅行中、現地

を出発し日本に帰国するまでの期間等はカバーされません。またその内容も不十分であることが多く、学生には研修先大学独自の保険と本学指定の保険の両方に加入してもらいます。

(2) 研修先大学の医療サービス

海外研修先大学には、風邪等軽い病気に対する薬等は常備してあります。そしてほとんどの大学には診療所（ヘルスサービスセンター）があり、医療スタッフがいます。研修先大学到着時に行われるオリエンテーションでこれらの設備・施設の利用法についての説明があります。また、医療緊急時の連絡先および電話番号、そしてその時どのような行動を取るべきか等についても情報が与えられます。

(3) 現在健康に問題がある場合（持病等）の対応

現在健康に問題のある学生、又は特別の治療・医療が必要な学生は、海外研修出発前にかかりつけの医者を受診し、必要なことは全て尋ね、健康の維持・管理に努めて下さい。また、海外へ出る際は必ず過去の治療・処方・病歴等を英訳し、それを常に携行するようにして下さい。もし健康状態の問題があれば、研修先を選択する前にグローバル教育センターに知らせてください。健康上の問題が深刻で、緊急医療等が必要となる可能性が高い場合は、「学内研修」の選択を考慮して下さい。

8. 旅行計画の作成について

(1) 航空券の購入

旅行の手配は学生が各自の責任で行うこととなります。本学には HIS の方が来られて格安航空券の紹介等をしてくれますが、最終的にどの旅行代理店を使うかは学生自身で決定することとなります。飛行便の予約が出来たら、英語での旅程表を作ってもらよう代理店に依頼し、そのコピーをグローバル教育センターに提出して下さい（HIS 利用の場合はその必要はありません）。これは各学生が研修プログラム参加のために適切な日時に出発、そして到着するかを確認するとともに、現地空港での出迎えを設定するために必要となります。

学生には自分の責任で出来るだけ有利な航空券（国内外）を購入すべく、また限られた旅費を最大限に活かして使うべく、創意と工夫をもって旅行計画を立てることが期待されます。また安全対策として、同じ研修先大学へ行く学生は、出来る限り一緒に渡航計画を立てる努力をしてもらいたいと思います。多少の妥協をしても一緒に行く方が、事故の防止、順調な海外研修のすべり出しという点からも大きなメリットがあります。

[滞在可能な期間について]

旅行日程を立てる際には学生ビザの有効期限についても考慮すること。国によってはプログラム終了と同時に学生ビザが無効となり、滞在期間の延長には現地入国管理局での手続きが必要となる場合があります。2019年は下記の通りです。

<オーストラリア>

プログラム終了後、1ヶ月。延長は最寄りの入国管理局で学生ビザが切れる前に手続きをします。

<カナダ>

通常、カナダ入国の日から6ヶ月。延長には期限終了の少なくとも5週間前に滞在延期を申請する必要があります。

<ニュージーランド>

プログラム終了後、3週間。延長は最寄りの入国管理局で学生ビザが切れる前に手続きをしま

す。

<アメリカ>

プログラム終了後、60日。それ以上滞在する場合は最寄りの入国管理局で延長手続きが必要となりますが、延長は困難と理解しておいてください。

<イギリス>

最長の滞在期間は6ヶ月。入国前に学生ビザを入手していない限り、それ以上の延長はできません。

*なお、学生ビザを取得して入国した場合、同じ大学で、あるいは同国の別の大学で勉強を続けたい場合は、次の大学にその旨を伝えれば、ビザの延長手続きを大学側がしてくれますので、ビザの期間のことを心配する必要はありません。

(2) 研修前後の計画

本学では2年次前期は8月始めに終了し、その後8月の3週間強と9月が夏季休業期間、10月から後期が始まり、その終了は翌年の2月初旬となりますが、海外研修に参加する学生に関しては、海外研修先大学での1学期(秋学期)が終了した時点(遅くとも12月下旬)で2年次の学修は終了となります。そのため、本学キャンパスでは授業が続いているものの、海外研修参加学生については、1月から3月まで授業はありません。従って、基本、8月から翌年3月末迄のおよそ8ヶ月間、学生は大学に戻ってくる必要はありません。各研修先大学のプログラム開始時期により多少差はありますが、海外研修期間は約16週間ですので、学生には海外研修終了後に3~4ヶ月間ほど自由に行動が出来る時間が生じることになります。

学生によっては、海外研修プログラム直前に日本を立ち、プログラム終了後すぐに帰国する者もいれば、海外に出来る限り長く滞在するべく計画を立てる者もいるなど、その計画は様々です。もし、経済的・時間的都合がつけば、出来る限り海外から多くのものを得てきてほしいと願っています。その際時間の使い方はいろいろあると思いますが、以下は過去の学生達が体験してきた事例です。参考までに記します。

- 同一の大学で英語の勉強を続ける。
- 他の大学のプログラムに移って英語の勉強を続ける。
- 許可を得て大学の授業に参加(聴講)する。
- ボランティア活動に参加する(但し、ホームステイは継続できない場合があるので注意。)
- 将来を考え、自分の視野を広げられるようなツアー等に参加する。
- 研修先の国で旅行をする。
- 他国を旅行する。

これらに関する情報、その他必要なアドバイスはグローバル教育センターができる限り提供しますので、気軽に相談に来てください。

<重要>

MICの責任の及ぶ範囲は、あくまで「海外研修期間のみ」であり、そのプログラムの前後は学生個人の責任においての滞りとなりますので、どんな計画を立てるにしても、学生は保護者とよく相談の上、責任を持って決定することが肝要となります。

(3) 自動車の運転

学生の海外研修中の自動車やバイク等の運転の是非は、保護者の判断に委ねざるを得ませんが、本学としては勧めません。研修中自動車等の運転を希望する場合は、研修出発前に、日本で国際

運転免許証を取得しておかなければなりません。研修先の国での運転は、その国や地域の状況を十分理解すると同時に、当然のことながらその国の交通法規を熟知しておかなければなりません。もし運転する場合は、もちろん飲酒運転は絶対に避け、国際的に有効な自動車保険に必ず加入した上で運転して下さい。ついでながら、レンタカー会社では車を借りる際、ほとんどの場合、大手のクレジットカードの提示を求められます。そのような事態を想定するのであれば、日本でクレジットカードを作っていく必要があります。

(4) 金銭について

<現地で銀行口座を開く>

現地の銀行で口座を開くと、お金の取扱が簡単にできます。キャッシュカードも作成できるので、お店やレストランなどで現金が必要なときに ATM から現金を引き出すことができます。さらに、当座預金の口座を開くと個人の小切手帳を作成することができ、ホームステイ代など、手数料なしか、あるいは安い手数料で支払うことができます。海外研修先のほとんどの大学では、オリエンテーション時に当座預金口座開設についての説明があります。

また、現地の銀行口座があると、日本からの送金の際にも使える場合があります。

<送金方法>

海外専用プリペイドカード

代表的なものとして、マスターカードプリペイドマネージメントサービシーズジャパン (株) が発行する「キャッシュパスポート」というカードがあります。通常のバンクカードのように、日本で作った自分の口座に入っている金額相当分を海外の ATM で引き出すことができます。口座は東京にあるため、国内送金で入金された金額は、その翌日には海外で引き落とし (利用) できるというメリットがあります。また、マスターカードプリペイドマネージメントサービシーズジャパン (株) は、MASTER カードが 100% 出資した会社であるため、カードは MASTER カード機能を持ち、デビットカードとして買い物に利用することができます。本学の学生はほぼ全員がこのキャッシュパスポートを作って海外での出費をまかっています。

三菱東京 UFJ 銀行、三井住友銀行、みずほ銀行の大手都市銀行やゆうちょ銀行に加え、ドコモ海外送金、セブン銀行海外送金、PayPal、Transfer Wise などのオンライン送金サービスを使って送金することもできます。それぞれ、送金手続、送金手数料、為替レートに違いがありますので、そのようなサービスを利用する場合は、よく調べてから使うようにしてください。なお、「キャッシュパスポート」については、問題等あった場合は、グローバル教育センターがカード会社に連絡するなどして問題解決に協力できますが、上記送金方法については一切関与できませんので、自身の責任で対応することを前提に利用してください。

いずれにしても、多くの現金を持ち歩くべきではありません。出発前のミーティングでも指導しますが、学生は現金を持ち歩く際には十分注意する習慣を身につけるようにしましょう。

<カード類等について>

前述したように、海外では多額の現金を持ち歩くのは避けるべきです。現金の代わりとして、クレジットカード/キャッシュパスポート/キャッシュカード (現地銀行発行) 等のカード類やパーソナルチェック (現地銀行発行) を携行するようにしてください。特に数ヶ国を旅行する学生にとっては、キャッシュパスポートやクレジットカードは絶対に必要となります。

(クレジットカードについて)

クレジットカードの一番のメリットは、現金を持ち歩かなくていいということです。日本では

買い物はまだ現金で支払いをすることも多いですが、外国はカード社会で、特に欧米では社会の隅々にクレジットカードが浸透し、ちょっとした買い物にもカードを使用します。また、クレジットカードは身分証明書 (ID) の代わりにもなります。しかし、カードでばかり買い物をしていると、どうしても金銭感覚が麻痺します。計画的に使うよう心がけてください。カードの種類としては、VISA カードが最も利用度が高く、次に MASTER カードとなります。どちらでもほとんど違いはありませんが、間違いなく、国際カード(海外で使えるもの)であることを確認し、取得して下さい。なお、キャッシュパスポートは ID の役割は果たしませんが、前述したように、MASTER カードとして利用できます。

9. 海外研修事前指導セミナーについて

学生は以下の内容に関する海外研修事前指導セミナーに出席することが義務づけられます。具体的な日時、場所、その他必要な情報は適宜電子メールで連絡されますので、学生はメールには十分注意を払い、指示に従って下さい。

- ① 研修申込み (研修先別) について
- ② ホームステイ申込み (研修先別) について
- ③ 学生 VISA 申請 (国別) について
- ④ 渡航計画 (航空券購入、ルート、接続等について HIS による説明会) について
- ⑤ 海外留学保険 (東京海上日動火災による説明会) について
- ⑥ 海外生活における安全、生活、銀行手続等 (注意事項、緊急事態への対応、研修先での医療機関の利用、送金手続、通貨、トラベラーズチェック、現金及びクレジットカードの所持、その他) について
- ⑦ 宿泊施設 (ホームステイ、ホテル等) について
- ⑧ ポートフォリオの作成について
- ⑨ 英語力の向上について
- ⑩ 出発準備 (現地の気候、到着後の入国手続、空港送迎、現地での支払い、学生了解書等) について

<各研修先でのオリエンテーションについて>

各大学では、プログラムの開始前に独自のオリエンテーションが行われます。そこで英語プログラムの内容から大学および大学所在地の案内、その他生活に関する様々な情報が提供されます。但し、大学によっては、これらの情報の詳細については書面のみで伝えられる場合もありますので、受け取った印刷物は、全てよく目を通しておくことが必要です。

(主な内容)

- a. 安全、セキュリティ対策・サービス
- b. 緊急時の対応、医療面の情報、学生の健康
- c. 交通手段
- d. ホームステイ
- e. 口座の開設、キャッシュカードの利用方法
- f. 電話、Wifi の利用
- g. 個人の必需品、衣類等を購入する店
- h. 大学施設の利用方法 (スポーツ施設、図書館、書店、カフェテリア等)
- i. 大学所在地の特色および魅力
- j. 学生生活や旅行
- k. 授業、試験等についての説明

能力に合ったクラスに学生を入れるため、ほとんどの大学でオリエンテーション時に英語力判

定テスト (Placement Test) が行われます。大学の授業については、別途オリエンテーションが行われます。以下はそこで話される内容の一部の例です。

- 1) アドバイザー、教員、プログラマデベロッパー、それぞれの役割
- 2) クラス分け、時間割、担当教員、授業教室
- 3) コースの選択
- 4) 履修科目の決定
- 5) テストスケジュール
- 6) E-mail アカウントの設定や学内コンピュータの利用方法
- 7) Listening/Learning Lab 等の学習施設の利用方法

10. 宿泊施設について

宿泊施設は、ビクトリア大学のみ夏季が寮、秋季がホームステイとなる以外は、すべてホームステイになります。ホストファミリーの手配は、研修先大学 (10 大学) が自らのハウジングセクションで行うか、大学 (5 大学) が推薦するホストファミリー紹介会社に本学が依頼して手配してもらうかのどちらかになります。ホストファミリーの選択は、ホームステイプログラムへの申込書に必要事項とともに希望・要望等を書くことはできますが、その決定はそれらの情報を総合して、大学側、もしくはホストファミリー斡旋会社が行い、本学もしくは学生に直接その情報が提供されます。その情報が知らされるタイミングはまちまちであり、どんなに早くても渡航1ヵ月前、一番遅い大学では、現地に着いてから紹介されるというところもあります。

ホストファミリーの変更は、どうしても必要であると判断された場合、その理由に正当性があると判断された場合にのみ可能となります。単なるカルチャーショック、好み、利便性等、学生の個人的な理由に起因すると判断された場合には、まず変更はできません。変更を考えるに相当すると思える事情があった場合は、まず大学側のハウジング担当者、もしくは、ホームステイ斡旋会社の担当者に相談してください。もちろん、どうしてもいい判断がつかない場合は、グローバル教育センターに連絡・相談してください。

なお、本学の海外研修期間中は、本学と研修先大学の双方が認めた宿泊施設 (基本はホームステイ) のみが宿泊施設となり、自分で見つけたアパートやシェアハウス (一軒家を共同で借りる) 等の利用はできません。これに反し、独断で住居を変更した場合には、本学、研修先大学とも学生の宿泊施設、基本的生活に関わるいかなる責任も負えないこととなりますので、結果、学生の海外研修許可を取り消し、履修登録を無効にします (単位の認定を行いません)。

また、危機管理、緊急連絡の必要上、学生は、海外研修期間中は各自の連絡先を常に本学と研修先大学に知らせておくことが義務付けられます。

<ホームステイに関する留意事項>

前述の通り、研修先大学によって、どの家庭にホームステイするか連絡時期が大きく異なります。ホームステイに入る1ヶ月前に連絡が来るところもあれば、研修先に着いてからでなければわからないところもあります (カナダのニュー・ブランズウィック大学は常にそうなります)。事前に知らされた場合は、出発前に電子メール等で連絡を取り、自己紹介をしておきましょう。

1) ホームステイの利点と欠点

海外のホストファミリーは、必ずしも「父親、専業主婦の母と子供たち」といった、一般的に理想的と思われるような家族構成の家庭ではありません。むしろ、そうでない方が一般的です。定年退職した老夫婦、子供のいるシングルマザー (あるいはファーマー)、多忙な社会人の一人暮らしの家庭、あるいは、20代後半から30代の若いカップルの家庭、という場合もあるかもしれません。また、大学から少し離れた地域にある家庭や、どちらかというと交通の便が悪い地域にある家庭もたまにあります。さらに、仕事や学校、スポーツクラブ等で忙しい家庭もあり、このよう

な家庭では、子供でさえいつも家にいるとは限らず、コミュニケーションをしたくても出来ない場合もあります。さらに、その国の国籍は持っているものの、人種的には東洋系、南米系、中東系、欧州系等々、いわゆる、「純粋な」アメリカ人、カナダ人、イギリス人、オーストラリア人、ニュージーランド人ではない場合も多々あります。海外（特にアメリカ）は多文化共生社会なので、我々日本人が思い描くような家庭ではない場合の方が多いことを十分理解しておく必要があります。

大学側、あるいは、ホストファミリー幹旋会社は、そのような家庭の事情を熟知しており、出来る限り学生の希望とホストファミリーの希望が合うような家庭を見つけるよう努力します。多くの家庭は異文化に興味を持っているがゆえにホストファミリーになっていますが、場合によっては、家計の一助とすべくホストファミリーになっているところもあります。しかし、そのような家庭でもホストファミリーとしての責任は十分に理解していますので、基本的には問題はありません。仮にその責任を果たさないようなホストファミリーであった場合には、大学側、あるいは、会社側がその対応をします。学生とも相談・協議を重ねた結果、問題が解決しないと判断された場合は、ホストファミリーの変更が行われます。

ホームステイに入る際は、理想的ホストファミリーの「夢」とらわれず、自分が置かれた状況をよく理解した上で現実的に物事を見つめ、ホストファミリーとの人間関係作りを積極的に行うことで、ホームステイの経験を最大限有意義なものにしてほしいと思います。他人の家に滞在する、ましてや言葉と文化が大きく違う国の人たちと一緒に暮らすわけですから、始めはストレスも大きく、誰しも大変さを感じるものです。しかし、それを乗り越えると、日本では決して得られない、かけがえのない体験ができたという満足感が生まれます。これまで海外研修に行った学生たちは、皆そのような感慨を持って帰国しています。有意義なホームステイ体験を一日でも早く実現する。そのためには、頭（知識）と心の準備を十分にしておくことが肝要となります。

なぜホームステイなのか。その理由としては以下のようなものを挙げることができます。

- a. 海外研修の国における日常生活を学ぶ最良の方法である。
- b. ただ訪問するだけでは経験出来ない、多くの活動に参加することが出来る。
- c. 新しい文化に順応するのが難しいと感じた場合、相談相手になってくれる人たちがいる。
- d. 生涯の良き友人を作る機会がある。

2) ホストファミリーでの食事

ほとんどの場合、ホストファミリーとの契約では、原則、毎日朝食と夕食の2食が提供されることになっています。ただし、夕食は作ってくれますが、朝食はその家にあるものを使って自分で用意する場合がほとんどです。これは、朝食についてはどの家庭も仕事等の関係で忙しく、家族がいつも一緒に食べる習慣がない場合が多いからです。その場合は、自分で勝手に冷蔵庫を開けて朝食を用意してもまったく問題ありません。家庭は食材を提供する義務があることを十分理解していますので、問題はなりません。昼食は、ほとんどの場合、大学で自分で購入して食べます。ホストファミリーでの食事については、自分の好き嫌い、あるいは、YES/NOをはっきり相手に伝えることが重要です。自分の好みをはっきり告げ、ほしいものはほしい、いらないものはいらないといった、はっきりした態度を示すことが大事で、余計な遠慮はかえってホストファミリーにとって負担になります。ホストファミリーの習慣をよく観察して、また、積極的に質問して、一日も早く「家族の一員として」、できるだけ自然な行動を取るよう心がけましょう。

3) 通学等

ホームステイ中、家庭によっては、朝、大学に送ってくれるところもあるかもしれませんが（少数派です）、そうでない場合は、大学が近い場合は自転車での通学、しかし多くの場合は、バスか電車等の公共交通機関を利用することになります。ホームステイ先は、研修先大学、あるいはホストファミリー幹旋会社が交通の便を考えて選んでいますので、通学には大きな問題はないはずですが、しかし、研修先によっては、現地の公共交通機関の少なさに驚くかもしれません。カナダ、

オーストラリア、アメリカでは、自家用車への依存度が高く、車を持たない学生は、出来るだけ快適な学生生活を送るべく、車を所有している学生を仲間にして利便性を高めているのが現実です。

4) 問題の対処

前述したように、正当な理由があればホームステイ先を変えることは出来ます。しかしその場合、まずは何が問題かをしっかり認識・確認し、それを関係者に知らせる必要があります。そのような事態が起こった場合は、必ず以下の行動を取ってください。

- 1) まず、何が問題かをしっかり把握すること。気に入らない事、満足出来ない事、居心地が悪いこと等を文章にする。
- 2) 次に、その問題、悩み事を話しやすい誰かに説明し、聞いてもらうこと。その人がホストマザーの場合もあるし、ハウスメイト（同居している留学生）、授業の先生、アカデミックアドバイザー、サイトメンターの場合もあるかもしれません。
- 3) 次に、研修先大学がホストファミリーの紹介をしている場合には、大学のハウジング（住居）担当者に（各センターには必ずハウジング担当者がいます）、また、会社が紹介している場合は本学の担当者に（事前に情報を渡しています）直接連絡して、その状況をはっきり説明し、その問題の解決を依頼します。もし、その状況を改善するのに良い考えがあるようであれば提案してください。その際、その問題がその地域の習慣に起因するかどうか尋ねることを忘れないでください。その地域の習慣を理解していない自分自身に問題がある場合もあり得ますので。
- 4) その後依然として問題が解決されていないと思った場合は、大学の英語プログラムのディレクター、あるいはコーディネーター等の管理責任者の所に行き、自分が MIC の学生であり、手助けが必要であることを伝え、その問題を再度説明の上、解決を依頼します。
- 5) それでも解決しない場合は、グローバル教育センターに Sky メール、Line や電話等を使って、その問題について知らせ、助けを求めてください。

*上記の手順は、3)を除けば、海外研修中の他の様々な問題への対処方法ともなりますので、しっかり理解しておいてください。過去に様々な問題がありましたが、全て解決し、ほとんどの学生は、後日その体験を、将来のためにいい経験だったと言っています。

11. カルチャーショックについて

海外研修を体験した学生の多くは、その程度の差こそあれ、それなりにカルチャーショックを受けるものです。これは自分の家を離れて異国で生活する者に共通して起こる心理的反応です。ほとんどの人が次の4期を経るといわれます。

- ① 全ての新しいものに驚き、興味を持つ興奮期
- ② 新しいもの、異質なものに苛立ち、退屈を感じたり、なじみのあるもの、心地よいものの方に戻りたいと思う不満期
- ③ 新しい物にもはや圧倒されることなく、古いものは、もはや必要としない適応期
- ④ 自分の家に帰り、固有の文化に戻った時、昔から慣れ親しんだものが、もはや自分に合わなくなっていることを発見してショックを受ける再入国期。この時期、友人や家族が自分のしてきた経験にあまり興味を示していないと感じたり、理解していないと思う。

保護者の方は、海外に出た学生とのやりとりを通じて、彼らが強いカルチャーショックを受けていると気づかれることがあると思います。しかし、ご安心下さい。このカルチャーショックは全く正常な反応であり、時間と共に解決される問題なのです。最初の1ヶ月が最も困難な時期です。学生は新しい文化の中でどのように問題を解決したらよいのか、その方法をまだ学んでいま

せん。しかし、各国の大学の教職員は、長年にわたりカルチャーショックに陥った学生の手助けをした経験を持っています。また、学生は本学を出発する前に十分問題解決の方法について学んでいるはずです。問題を解決してくれる適任者を見つけ、その人に何が問題で、何を解決すれば楽になるのかを話すことで、カルチャーショックを乗り切ることができます。

保護者の方は学生から、自分がいかに不幸なのかを切々と語る、多分に絶望的にさえ聞こえる電話を受け、ショックを受けられることがしばしばあります。しかし、学生はその数時間後には友人と会って買い物に出かけたり、あるいは何らかの手助けを得たことにより、家で心配している家族のことをすっかり忘れ、晴れ晴れとした気持ちで過ごしていることもよくあります。

しかし、何度か学生と連絡を取り、問題が深刻であると思われた場合は、本学にご連絡下さい。我々も研修先大学の担当者と電子メール、電話、Skype や Zoom 等を使って連絡を取り、最善の方法を見だし、最大限、早期の問題解決に努力します。

<海外研修を終えた学生からのアドバイス>

『見知らぬ国に住み、味わったことのない食事を食べるのは一種のカルチャーショックでした。学生の中には随分苦勞している人もいました。中にはつらくて、家に帰りたいたいと思っていた者もいました。でもこのように感じたら、皆さんは部屋に閉じこもらずに、外に出て、人々と出会うして下さい。様々な活動に参加しましょう。買い物に出かけるのもいいでしょう。そうすれば、すぐに生活は快適になってきます。友達も出来ますよ。私達もそうして成功したんです。

もう少しアドバイスをすると、日本米、日本茶、お気に入りの食べ物を持って行って下さい。大好きな、なじみの食べ物がカルチャーショックを忘れられる一時を提供してくれます。ただし、それはたまにはいいけど、毎日は駄目ですよ。

最後に、その土地の食べ物に気が進まなければ、ピザやマクドナルド、ケンタッキーフライドチキンなどを利用して下さい。そういう食べ物はどこにでもあります。それらもつらさを忘れさせてくれるかもしれません。』

1 2. 起こりうる典型的問題と不満について

学生が新しい国での生活や勉学に入ると出てくる典型的な問題、あるいは不満を以下に記します。これらの多くは決して特別なものではなく、学生は時間の経過とともに消化し、ある時期がくると全く問題として認識しなくなり、当然のことのように順応していく性質のものがほとんどです。もちろん、どうしても我慢出来ないものについては何らかの対処が必要であることは言うまでもありません。

- ホストファミリーが気に入らない—交通の便が悪い。大学、ショッピングセンター等から遠すぎる。騒々しい。プライバシーがない。家族のだれとも話さない。バスルームに慣れない。食事は配膳されず、自分でするように言われた。習慣に慣れず孤独である。
- ハウスメイトが気に入らない—うるさい。寝ない。いつも寝ている。友好的でない。
- 町や授業が退屈で気に入らない。
- 食物に嫌気がさす—日本米でないので、飯がまずい。何も食べたくない。太ってくる。
- 大学の授業が気に入らない—簡単すぎる。きつすぎる。日本人が多い。ネイティブの学生と話す機会を作るのが難しい。友人を作るのが難しい。
- 日本人が気に入らない—他の日本人は英語を話そうとしない。親切でもない。異文化に対する理解が欠けているので他の学生を困惑させる。日本人学生が日本人のグループに入らなければ腹を立てる。日本人のくせにやたらと英語を話したがる。外国人を友人に持ちたがる。
- 自由研究が難しすぎる—題材が思いつかない。題材を絞りこめない。インタビューするのが怖い。すべての課題をする時間的余裕がない。

保護者の皆さんは、最初の1ヶ月が過ぎると、これらの不満のほとんどが解消されたことを知

り、安心されることでしょう。一つの問題を解決出来る^と学生は次の問題も解決できるようになり、そしてそうしていくことが毎日の生活の一部になるのです。

ある時学生が本学に送ってきた海外研修レポートのうちの9割に、海外にもっと長くいたい、本学に、あるいは日本に帰りたい、友人と別れるのが悲しい、食習慣になったフィッシュ・アンド・チップス（イギリスの代表的な食べ物）などが食べられなくなるのが悲しい、といった意見がみられました。このような他国の環境に成功裏に順応することは、海外研修体験の重要な要素の一つです。これらの経験は成長への重要なステップであり、今後の人生の飛躍への貴重な準備といえます。

1 3. 学内研修について

経済的理由、健康上の問題等本学がやむを得ない理由と認めた場合に限り、学内での研修が可能となります。学内研修を希望する場合は、海外研修センターで所定の書類（学内研修願）をもらい、その理由を明記のうえ、2021年4月12日（月）までにグローバル教育センターへ提出してください。その後、必要があれば理由の確認等の目的で面談が行われ、学部長によって最終決定がなされます。

本学としては、海外において最低15週間～17週間で問題なく過ごすにあたり障害となる可能性のある慢性的疾患を持っている学生に対しては、この学内研修という選択肢を強く勧めます。また、英語力や成績に大きな問題があると判断された学生に対しては、学内研修を課す場合もあります。なお、海外研修参加に必要な単位（36単位）を取得していない学生は、海外研修プログラム（海外及び学内）そのものに参加できません。

1 4. グローバル教育センターと保護者のミーティングについて

（1）三者面談

学生にとって海外研修は大事業であり、それを成し遂げるための計画・準備の指導・お手伝いをするのがグローバル教育センターの役割です。

保護者の皆様には、海外研修に関してご質問やご心配等がおありの際は、いつでも気軽にグローバル教育センターまでご連絡ください。必要があれば面談の予約もいたします。担当者及び電話番号は以下の通りです。

学長補佐・グローバル教育センター長：西村直樹
グローバル教育センター副センター長：ウォーカー祐貴子

電話番号：(0985) 85-5931（代）
月曜日～金曜日：午前9時～午後5時

（2）保護者説明会

前述の通り、第2回目となる海外研修説明会は、2021年4月4日（日）午後1時から行う予定です。説明会前後にも個別面談ができますので、ご希望の際は事前にご連絡ください。

15. 緊急連絡先について

学長補佐・グローバル教育センター長：西村直樹

Eメール：nnishimu@sky.miyazaki-mic.ac.jp

緊急電話（個人） _____ (携帯)

Skype: _____

Line: _____

グローバル教育センター副センター長：ウォーカー祐貴子

Eメール：ywalker@sky.miyazaki-mic.ac.jp

緊急電話（個人） _____ (携帯)

Skype: _____

Line: _____

16. 海外研修単位取得に係るガイドライン

海外研修科目（SAB 201、SAB 202、SAB 203）の単位取得にあたっては、学生は受講する全科目をパスするとともに、完成した全ての提出物を締切日までに研修先の本学担当教員に提出しなければならない。その具体的提出締切り期限については、各研修先英語プログラム担当者より連絡される。なお、海外研修に行く前の2021年1月にTOEIC試験、そして、海外研修後の2022年4月にもTOEIC試験を受験することが義務づけられている。帰国後TOEIC試験を受けなければ、海外研修単位は認定されない。

<ポートフォリオ（諸課題集）について>

一学期間、学生は研修先で本学担当教員と定期的に会い、ここに記される提出物の進行状況について話し合う。また、学生は同提出物の進行状況を、適宜グローバル教育センターに電子メールにより連絡するものとする。なお、提出物は以下の4つのセクションを含まねばならない。

(ア) 英語セクション (SAB 201)

(イ) 自由研究セクション (SAB 202)

(ウ) 地域研究セクション1 (SAB 203)

(エ) 地域研究セクション2 (SAB 203)

* (ウ) と (エ) は地域研修セクションとして一つになっていても問題ない。

(1) 英語セクション：最低 3,750 ワード (10 ページ相当)

該当科目 (単位)：SAB201 英語 (6 単位)

ポートフォリオの英語セクションには、英語の授業で提出した課題から最も出来の良かった作品の幾つかを選び、入れるものとする。このセクションは少なくとも最低 3,750 ワード (10 ページ) 以上の文章を含むものとする。ワークシート、ボキャブラリーやイディオム等のリストの流用ではなく、自分自身が作成したオリジナルのもののみがカウントされる。やむを得ずワークシートやリスト類を含めた場合は、その部分は1 ページを半ページに数えるものとする。受講した授業はその担当教員によって評価される。宮崎国際大学の単位取得のためには、受講した全ての授業をパスしなければならない。

(2) 自由研究セクション：最低 3,750 ワード (10 ページ相当)

該当科目 (単位)：SAB202 自由研究 (2 単位)

学生は研修先の国、地域、文化に関わるテーマを自ら設定し、地域社会、コミュニティに直接働きかけることによってそのテーマを追求し、自らの研究論文として仕上げる。そのテーマの選択にあたっては、自身の興味を反映するとともに、地域に自分自身を積極的に関与させるものであることが望ましい。そのため、図書館、インターネットを使っての情報収集に留まらず、聞き取り調査、観察、アンケートの実施等を行い、それらを分析することで実態を理解し、その後、自らの意見をもってそれなりの結論を導き出すよう努力することが求められる。Independent Study (自由研究) の論文を作成するに当たっての注意点・留意点は以下の通りである。

- ① 自らの研究テーマがあつての研究であるので、現地で何かに興味をわいたからといって、ただ単にそれについて情報を集めてまとめただけでは研究論文としては不適切である。
- ② 研究テーマを日本、日本文化・慣習、日本的発想 (自分の考えを含む) との比較において立てることが重要である。そうすることにより、前提として考えること、書く事が自ずと出現し、研究の意義が深まるとともに、作成が容易となる。
- ③ 写真、イラスト等は枚数 (必要分量) とは認められない。あくまで自ら書いた文章量が枚数の判断基準となる。

地域の情報を知る、インタビューする相手を見つける、その約束を取る、研究のためにボランティア活動が出来る適切な場所を見つける、あるいは、その他研究に関するアドバイスが必要な場合は、研修先の本学担当教員（サイトメンター）に相談すること。また、研究の進捗については、サイトメンターが把握できるように、適宜連絡しておくこと。グローバル教育センターのアドバイスが必要な場合は、Sky メールや Line を使って相談すること。

(3) 地域研究セクション1 & 2 (必ずしも分かれている必要はない)

該当科目 (単位) : SAB203 地域研究 (6 単位) 各 最低 3,750 ワード (10 ページ相当)
合計 最低 7,500 ワード (20 ページ相当)

基本的には自らが書いたエッセイやレポート等によって構成される。その内容は多岐に渡って構わないが、原則として海外（滞在先等）で体験したこと、気づいた文化的違い、現地の様子、文化の異なる人々との触れ合い等、海外の諸地域に行かなければ知り得なかった事柄についてのエッセイ、あるいはレポートとなること。その材料となる活動としては以下のようなものが挙げられる。

- 地域でのボランティア活動への参加
- 講演会への出席
- 本学指定以外の研修先大学正規開講クラスへの参加（聴講）
- 大学の生涯教育課あるいは地域のコミュニティセンター主催の授業への参加
- 地域の文化的あるいは歴史的場所・施設、地域住民の会合、教会、美術館・博物館、学校、諸奉仕団体、等々の訪問

また、英語の授業（英作文の授業等）の中で書いた、社会や文化に関するエッセイやレポートを含んでも構わないが、English Section とはその内容が異なることに留意すること。その他、自らの海外体験に関連した未公開の日誌なども使うことができる。

以下はトピックの例である。

- 新しい町における交通手段
- 短い日帰り旅行の旅日記
- 海外生活に対する個人的感想
- 研修国での英字新聞に出た日本に関する記事を読んで
- 自分の感想、意見、アドバイスなどを含む海外研修最終レポート

(大学の正規授業を受講する場合)

いくつかのサイトでは、学生の英語力が高い場合、1つもしくはそれ以上の正規授業を履修することができるが、その場合、その受講は「地域研究」該当科目とする。但し、授業はリベラルアーツ科目（人文科学、社会科学及び地域研究関連科目）でなければならないため、希望するコースが取れるかどうかは事前に本学に確認し、了承を得なければならない。提出物には、授業で提出したエッセイ、授業での配布物（クラス・ノート）、学内あるいは学外活動の報告書を含む。授業のシラバスや課題のリスト、ポキャブラリーリスト等の他に、少なくとも10ページ以上の自らが作成した（書いた）文章を含んでいなければならない。授業の課題、その他の評価は授業担当教員がおこなう。なお、本学の単位取得のためには、その受講したコースをパスしなければならない。聴講生であって、正規学生として授業を受けていない場合は、そこでの課題その他の評価は本学の現地担当教員が行い、その学習の進行状況は適宜グローバル教育センター長に報告される。

※ 本学の単位として認められない科目としては、数学、会計学や簿記等の経営学系統科目等がある。TOEFL や TOEIC の英語試験対策コース等を履修できる場合もあるが、これらの科目で取り扱った内容（宿題やハンドアウト）についてはポートフォリオの一部としてはカウントされない。

<重要事項>

- 1) 他人の書いたものを流用する盗用・剽窃(ひょうせつ)行為はポートフォリオの中のいかなる部分においても許されない。盗用であることがわかった個所は書き直しとなり、その程度が悪質と判断された場合には、その単位の取得が認められない場合もある。
- 2) 本学の単位取得のためには、海外研修前後に TOEIC を受験すること、自らのポートフォリオを期限までに完成すること(期限は、サイトメンターが設定する期限と e ポートフォリオにアップロードする期限があるので留意すること)、そして、履修した科目(コース)を全てパスすることが必要である。
- 3) ポートフォリオは Mahara 上の e ポートフォリオに各自でアップロードすることになるが、その際、各トピックの文章はワードカウントをした上で、そのワード数を記入すること。データやグラフ等、自らが作成していない外部の情報に文字が入っている場合があるが、それらは必要ワード数には含まれないことを理解しておくこと。
- 4) ポートフォリオの本学への提出期限(e ポートフォリオへのアップロード)は 2022 年 1 月 31 日(月)午後 11 時 59 分 59 秒(日本時間)とし、各研修大学での提出期限は、各研修先大学のサイトメンターの指示に従うものとする。通常、ポートフォリオの評価及び海外研修単位(14 単位)の認定(P (Pass) あるいは F (Fail))は、海外研修参加年度(2 年次)の 2 月初めに行われる。特別な事情(健康上の問題等)がない限り、海外研修の単位認定が 3 年次以降に行われることはない。
- 5) 海外研修単位(卒業必修単位)を落とした場合(研修先大学の履修科目で不可(F)を取る、あるいは、ポートフォリオを期限までに提出しない等の理由による)は、3 年次の秋学期に「海外研修」の学内研修プログラムの履修をもって、海外研修単位を取得する必要がある。
- 6) 海外研修後 3 年次開始までに TOEIC500 点、もしくは、TOEFL IBT 45 点を取得していない場合は、留年となり、3 年次に進級できない。

II. 参考資料－1

1. 在日公館リスト

アメリカ合衆国大使館 **Embassy of the United States of America in Japan**

〈東京〉〒107-8420 東京都港区赤坂 1-10-5 TEL : 03-3224-5000
(Tokyo) 107-8420 Tokyo-to, Minato-ku, Akasaka 1-10-5

アメリカ合衆国総領事館 **Consulates-General of the United States of America**

〈大阪、神戸〉〒530-8543 大阪市北区西天満 2-11-5 TEL : 06-6315-5900
(Osaka, Kobe) 530-8543 Osaka-shi, Kita-ku, Nishitenma 2-11-5

〈那覇〉〒901-2101 浦添市当山 2 丁目 1-1 TEL : 098-876-4211
(Naha) 901-2101 Urasoe-shi, Touyama 2-1-1

〈福岡〉〒810-0052 福岡市中央区大濠 2-5-26 TEL : 092-751-9331
(Fukuoka) 810-0052 Fukuoka-shi, Chuo-ku, Ohori 2-5-26

〈札幌〉〒064-0821 札幌市中央区北一条西 28 丁目 TEL : 011-641-1115
(Sapporo) 064-0821 Sapporo-shi, Chuo-ku, Ichijo-nishi 28

アメリカ合衆国領事館 **Consulates of the United States of America**

〈名古屋〉〒450-0001 名古屋市中村区那古野 1-47-1 名古屋国際センタービル 6 階
TEL : 052-581-4501

(Nagoya) 460-0003 Nagoya-shi, Nakamura-ku, Nakono 1-47-1, Nagoya Center Building 6F

カナダ大使館 **Embassy of Canada in Japan**

〈東京〉〒107-8503 東京都港区赤坂 7-3-38 TEL : 03-5412-6200
(Tokyo) 107-8503 Tokyo-to, Minato-ku, Akasaka 7-3-38

在大阪カナダ名誉総領事館 **Honorary Consulate of Canada in Osaka**

〈大阪〉〒542-0086 大阪市住之江区平林南 1-8-19 津田産業(株)内
TEL : 06-6681-0250
(Osaka) 542-0086 Osaka-shi, Suminoe-ku, Hirabayashi Minami 1-8-19, Tsuda Sangyo, Inc.

在福岡カナダ名誉領事館 **Honored Consulates of Canada in Fukuoka**

〈福岡〉〒810-0004 福岡市中央区渡辺通り 2-1-82 九州電力(株)内
TEL : 092-726-6348

(Fukuoka) 810-0004 Fukuoka-shi, Chuo-ku, Watanabe-dori 2-1-82 Kyushu Electric Power Co., Inc.

在名古屋カナダ領事館 **Consulates of Canada in Nagoya**

〈名古屋〉〒460-0002 名古屋市中区丸の内 3-17-6 ナカトウ丸の内ビル 6 階
TEL : 052-972-0450

(Nagoya) 460-0002 Nagoya-shi, Naka-ku, Marunouchi 3-17-6 Nakato Marunouchi Bldg. 6th fl.

オーストラリア大使館 **Australian Embassy in Japan**

〈東京〉〒108-8361 東京都港区三田 2-1-14 TEL : 03-5232-4111
(Tokyo) 108-8361 Tokyo-to, Minato-ku, Mita 2-1-14

在大阪オーストラリア総領事館 **Australian Consulate-General in Osaka**

〈大阪〉〒540-6116 大阪市中心区城見 2-1-61 ツイン 21M I D タワー 16 階
TEL : 06-6941-4271

(Osaka) 540-6116 Osaka-shi, Chuo-ku, Shiromi 2-1-61 Twin 21 MID Tower 16th fl.

在福岡オーストラリア総領事館 **Australian Consulates-General in Fukuoka**

〈福岡〉〒810-0001 福岡市中央区天神 1 丁目 6-8 天神ツインビル 7 階
TEL : 092-734-5055

(Fukuoka) 810-0001 Fukuoka-shi, Chuo-ku, Tenjin 1-6-8, Tenjin Twin Building 7F

ニュージーランド大使館 New Zealand Embassy in Japan

〈東京〉 〒150-0047 東京都渋谷区神山町 20-40 TEL : 03-3467-2271

(Tokyo) 150-0047 Tokyo-to, Shibuya-ku, Kamiyama-cho 20-40

ニュージーランド名誉領事館 Honorary Consulates of New Zealand

〈福岡〉 〒812-0011 福岡市博多区博多駅前 3-5-7 博多センタービル

西日本鉄道株式会社内

TEL : 092-734-1554

(Fukuoka) 810-0011 Fukuoka-shi, Hakata-ku, Hakata Ekimae 3-5-7,

Hakata Center Building, Nishi-Nippon Railroad Co., Ltd.

〈大阪〉 〒540-8323 大阪市北区中崎西 2-4-12 梅田センタービル ダイキン工業株式会社内

TEL : 06-0373-4583

(Osaka) 540-8323 Osaka-shi, Kita-ku, Nakazaki Nishi 2-4-12, Umeda Center Building,

Daikin Industries, Ltd.

〈名古屋〉 〒454-0802 名古屋市中川区福住町 2-26 リンナイ (株) 内

TEL : 052-361-8415

(Nagoya) 454-0802 Nagoya-shi, Nakagawa-ku, Fukuzumi-cho 2-26, Rinnai Co. Bldg.

英国 (イギリス) 大使館 Her Britannic Majesty's Embassy in Japan

〈東京〉 〒102-8381 東京都千代田区一番町 1 TEL : 03-5211-1100

(Tokyo) 102-8381 Tokyo-to, Chiyoda-ku, Ichiban-cho 1

英国総領事館 British Consulate-General in Osaka

〈大阪〉 〒541-0059 大阪府中央区博労町 3-5-1 御堂筋グランドタワー 1 9階

TEL : 06-6120-5600

(Osaka) 541-0059 Osaka-shi, Chuo-ku, Bakuro-cho 3-5-1, Midouji Grand Tower. 19th fl.

英国名誉領事館 British Honorary Consulate in Kitakyushu

〈福岡〉 〒802-0077 北九州市小倉北区馬借 1-7-17 J-フィールド 5F

ローレンス英会話教室内

TEL : 094-541-5605

(Fukuoka) 802-0077 Kitakyushu-shi, Ogura Kita-ku, Bashaku 1-7-17, J-Field 5F,

Lawrence English School

2. 在外公館リスト

在アメリカ日本国大使館・総領事館 (U.S.A.)

在サンフランシスコ日本国総領事館 Consulate-General of Japan in San Francisco

275 Battery Street, Suite 2100, San Francisco, California 94111, U.S.A.

Tel: (1-415) 780-6000

Fax: (1-415)767-4200

http://www.sf.us.emb-japan.go.jp/itprtop_jp/index.html

在ロサンゼルス日本国総領事館 Consulate-General of Japan in Los Angeles

350 South Grand Avenue, Suite 1700, Los Angeles, California 90071, U.S.A.

Tel: (1-213) 617-6700

Fax: (1-213) 617-6727

<http://www.la.us.emb-japan.go.jp/web/home.html>

在カナダ日本国大使館・総領事館 (Canada)

在カナダ日本国大使館 Embassy of Japan in Canada

255 Sussex Drive, Ottawa, Ontario K1N 9E6, Canada

Tel: (1-613) 241-8541

Fax: (1-613) 241-2232

http://www.ca.emb-japan.go.jp/itprtop_jp/index.html

在バンクーバー日本国総領事館 Consulate-General of Japan in Vancouver

900-1177 West Hastings Street, Vancouver, B.C., V6E 2K9, Canada

Tel: (1-604) 684-5868

Fax: (1-604) 684-6939

http://www.vancouver.ca.emb-japan.go.jp/jpn/itprtop_jp/index.html

在トロント日本国総領事館 Consulate-General of Japan in Toronto

Suite 3300, 77 King St. W., Toronto, Ontario, M5K 1A1, Canada

(P.O. Box 10 Toronto-Dominion Centre)

Tel: (1-416) 363-7038

Fax: (1-416) 367-9392

http://www.toronto.ca.emb-japan.go.jp/itprtop_jp/index.html

在オーストラリア・ニュージーランド日本国大使館・総領事館 (AUS/NZ)

在シドニー日本国総領事館 Consulate-General of Japan in Sydney

Level 12, 1 O'Connell Street, Sydney, N.S.W. 2000, Australia

Tel: (61-2) 9250-1000

Fax: (61-2) 9252-6600

http://www.sydney.au.emb-japan.go.jp/index_j.html

在オークランド日本国総領事館 Consulate-General of Japan in Auckland

Level 15, AIG Building, 41 Shortland Street, Auckland CBD, New Zealand.

(P. O. Box 3959)

Tel: (64-9) 303-4106

Fax: (64-9) 377-7784

http://www.auckland.nz.emb-japan.go.jp/itprtop_ja/index.html

在英国日本国大使館・総領事館 (U.K.)

在英国日本国大使館 Embassy of Japan in United Kingdom (U.K.)

101-104, Piccadilly, London, W1J 7JT, U.K.

Tel: (44-20) 7465-6500

Fax: (44-20) 7491-9348

<http://www.uk.emb-japan.go.jp/jp/index.html>

3. 荷物と郵送について

(1) 手荷物

飛行機と一緒に持っていける無料手荷物の許容量は航空会社やクラス区分によって異なります。許容量を超える場合は超過手荷物料金が必要です。

超過小荷物として同時に運ぶことも出来ますが、通関手続きや空港からの運搬を考慮すると、当面必要なもの以外は、郵便局や運送会社より別送したほうがよいでしょう。

正確な手荷物許容量や超過手荷物料金については、各航空会社に直接確認して下さい。

(2) 郵送

●郵便事業

郵便局から衣類や書籍を小包で送る場合、船便・航空便・SAL便（エコノミー航空小包）などの方法があります。詳しくは郵便事業株式会社のホームページで確認して下さい。

●運送会社の宅配便

船便・航空便とあり、国内の宅配便と同じ方法での配達が可能です。料金は各社ごとに異なります。船便で送れる荷物の重量は30kg、縦・横・高さの合計が1.5m以内、航空便は32kgまでです（最新の情報は各運送会社に確認してください）。

III. 参考資料－ 2

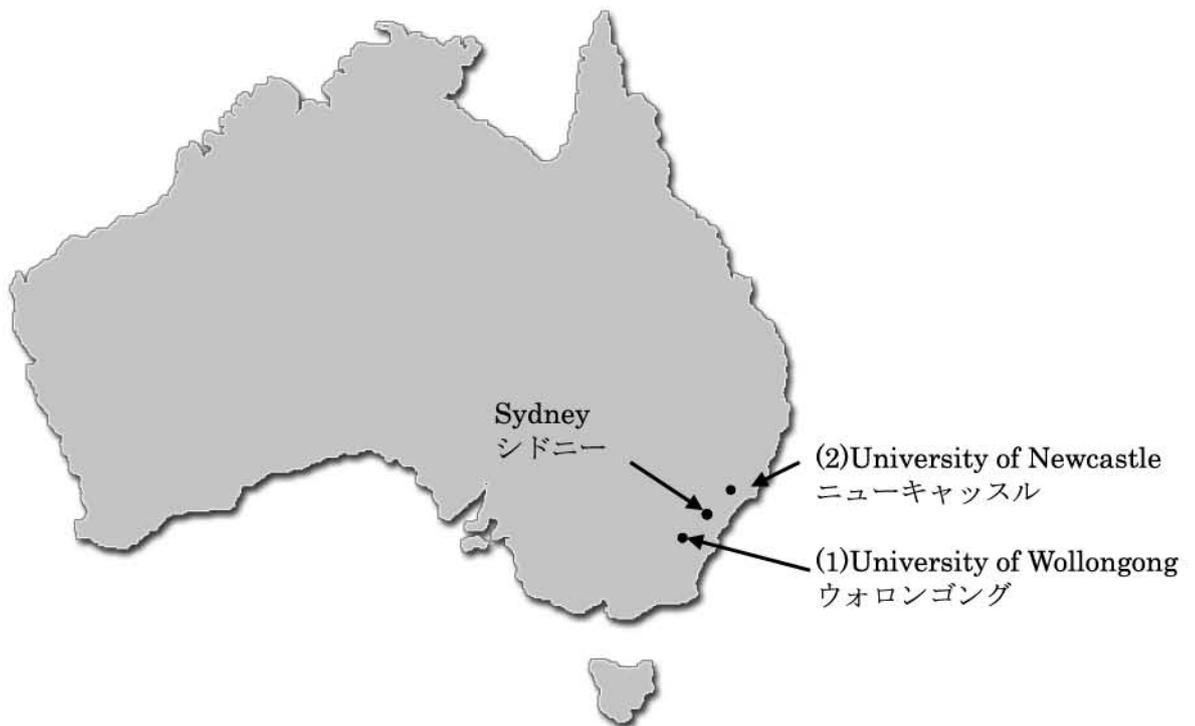
各研修先大学の紹介

	国別	海外研修大学	ページ
1	オーストラリア	ウォロンゴング大学	35
2		ニューキャッスル大学	36
3	ニュージーランド	ワイカト大学	37
4		オタゴ大学	38
5	カナダ	ビクトリア大学	40
6		サイモン・フレージャー大学	41
7		フレージャー・バレー大学	42
8		トンプソン・リバーズ大学	43
9		ニュー・ブランズウィック大学	44
10	アメリカ	ソノマ州立大学	45
11		サンノゼ州立大学	46
12		カリフォルニア州立大学サンマルコス校	47
13		サンディエゴ州立大学	48
14		アリゾナ州立大学	49
15	イギリス	カンタベリー・クライスト・チャーチ大学	51

注) 記載した情報は 2019 年度のものであり、変更される可能性があります。

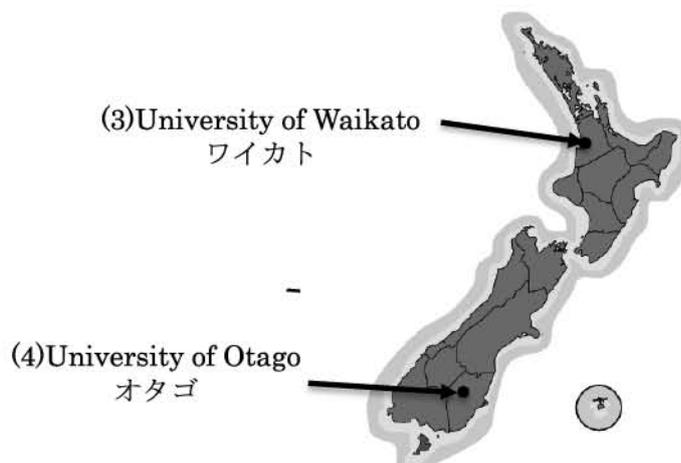
Australia

オーストラリア



New Zealand

ニュージーランド



1. ウォロンゴング大学 (University of Wollongong)

Group Program General English (Study Tours)

Wollongong NSW 2500 Australia

Phone: 61-2-4252-8804 Fax: 61-2-4221-3233

Contacts: Nikki Cole, ELICOS Program Manager/Coco Toh, Admissions & Study Tours Officer

(1) 紹介

ウォロンゴング市はオーストラリアで7番目に大きい都市で、シドニーの中心部から列車で南に1時間半の距離にある。「ウォロンゴング」とは「山と海の間」という意味で、大学は熱帯雨林に覆われた崖を見上げるなだらかな傾斜地にあり、美しい海岸から数分のところにある。幅広い英語プログラムが用意されており、言語と文化の優れた授業を提供している。

(2) プロフィール

大学生数	:	約12,000人 *年によって異なる。
語学研修生数	:	約250~350人 (日本人が8~20%) *年によって異なる。
必要TOEFL点数	:	なし
研修に要する週数	:	16週
週当たりの授業日数	:	5日 (週当たり計20時間、自習時間数はプログラムにより異なる)
研修期間	:	8月中旬 ~ 12月中旬
英語研修プログラム	:	5レベルに分けられる。それぞれのレベルに応じた、優れた英語研修プログラムが数多く用意されている。学生はアジア諸国から来ている。
キャンパス概要	:	キャンパスは近代的。学生会館、図書館、コンピュータ・ラボ、レクリエーションおよび水泳センターがある。全ての施設は1年中利用可能。夕方にはオウムが集まって来る。
正規授業受講可否	:	不可
ボランティア活動	:	15時間のボランティア地域交流科目あり。

(3) 宿泊設備

ホームステイ	:	大学側が手配
ホームステイの食事	:	週16食



(4) 所在地 (町、市) の情報

市の人口	:	ウォロンゴング市—約22万人
最寄りの空港	:	シドニー国際空港
最寄りの大都市	:	シドニー (北に80km、列車で約1時間半)
気候	:	9—10月: 23℃、11—12月: 28℃ (この時期オーストラリアは夏に当たる。)
生活費	:	平均的
近隣観光スポット	:	シンビオ動物公園、ウォロンゴンビーチ&モール、ウォロンゴンアートギャラリー、キアマビーチ&ブローホール、シドニー日帰り旅行、他

2. ニューキャッスル大学 (University of Newcastle)

University of Newcastle Language Centre

University Drive, Callaghan, NSW, Australia 2308

Phone: 61-2-4921-6536 Fax: 61-2-4921-7068

Contact: Michelle Picard, Deputy Director, English Language & Foundation Studies Center

(1) 紹介

ニューキャッスル市は、美しいオーストラリア東海岸に位置し、都市生活と田舎生活の両方の良さを堪能出来る町である。素晴らしいビーチ、穏やかな天候、気取りのないライフスタイルで生活費も比較的安い。レストラン、カフェ、公園、劇場、アートギャラリー、ショッピングセンター等があり、退屈しない。水泳、サーフィン、ボードセーリングを楽しめるビーチも沢山ある。キャンパスは、ユーカリの林に囲まれたニューキャッスル市の郊外にある。

(2) プロフィール

大学生数	:	約23,000人 *年によって異なる。
語学研修生数	:	約200人 (日本人が約5%) *年によって異なる。
必要TOEFL点数	:	なし
研修に必要な週数	:	15週
週当たりの授業日数	:	5日
研修期間	:	8月下旬~12月下旬
英語研修プログラム	:	4レベルに分かれる。各レベルに合った優れた数多くの英語研修プログラムが用意されている。多くの学生はアジア諸国から来ている。
キャンパス概要	:	言語センターは大学の真ん中に位置している。レストラン、売店、理髪店、旅行代理店、本屋、保健室、郵便局、銀行を備えた学生会館も構内徒歩2分のところにある。スカッシュコート、テニスコート、クリケット、サッカー、野球が出来る運動場、バスケットボールコート、完備されたジムがある運動施設場も構内徒歩5分のところにある。
正規授業受講可否	:	不可
ボランティア活動	:	あり。

(3) 宿泊設備

ホームステイ	:	大学側が手配
ホームステイの食事	:	週16食

(4) 所在地 (町、市) の情報

市の人口	:	ニューキャッスル市-約16万人
最寄りの空港	:	シドニー空港
最寄りの大都市	:	シドニー市
気候	:	温暖。夏は暑く、冬は温かい。
生活費	:	比較的安い
近隣観光スポット	:	ブラックバット自然公園、ポートステファンドルフィン観光クルーズ、オーストラリア爬虫類公園、ハンターバレーぶどう園、他

3. ワイカト大学 (The University of Waikato)

Certificate of Attainment in English Language (Levels 1-3) / Certificate of Attainment in Academic English (Level 4-8)
PO Box 1317, Waikato Mail Centre, Hamilton, New Zealand
Phone: 64-7-858-5600 Fax: 64-7-858-5694
Contact: Dianne Moffitt, CAEL Program Coordinator

(1) 紹介

オークランドから車で南にちょうど1時間、ハミルトン市にあるワイカト大学の英語研修プログラムセンターは、街中のキャンパスにあり非常にモダンな建物である。ハミルトン市は人口10万人を超え、ニュージーランドでは第4番目に大きい町だが、園芸品と馬の牧畜で有名な、のどかで自然が豊富な環境に位置する。学生達は、このような静かで安全な環境の中で勉学に励むことが出来る。

(2) プロフィール

大学生数	: 約12,600人 *年によって異なる。
語学研修生数	: 約1,738人 (日本人が約25%) *年によって異なる。
必要TOEFL点数	: なし
研修に要する週数	: 15週
週当たりの授業日数	: 5日
研修期間	: 8月下旬~12月初旬
英語研修プログラム	: 8レベルに分かれる。各レベルに合った優れた英語研修プログラムが用意されている。アジアからの学生が多い。
キャンパス概要	: ワイカト大学は近代的なキャンパスで、コンピュータ、図書館、スポーツ・センター、学生/教職員用のクラブなど種々の設備を持っている。
正規授業受講可否	: 不可
ボランティア活動	: なし。

(3) 宿泊設備

ホームステイ	: 大学側が手配
ホームステイの食事	: 週21食

(4) 所在地 (町、市) の情報

市の人口	: ハミルトン市-約17万人
最寄りの飛行場	: ハミルトン空港 (オークランド空港から乗り継ぎ)
最寄りの大都市	: オークランド市: 車で北へ約1時間半 (120km)
気候	: 研修プログラムの開始時期は冬の終わりに当たる
生活費	: 中程度
近隣観光スポット	: ロトルア、ワイトモ洞窟、ラグランビーチ、ホビトン映画撮影セットツアー、他

4. オタゴ大学 (University of Otago)

University of Otago Language Center (UOLC)
PO Box 56, Dunedin, 9054, New Zealand
Phone: 64-3-479-5869 Fax: 64-3-479-5251
Contact : Paul Baker, Academic Manager

(1) 紹介

オタゴ大学はニュージーランドで最初に創設（1869年）され、その研究内容の質では常に首位に立つ。その構内の快適かつ機能的な校舎で授業を行う。

世界80カ国からやってきた2500人の留学生を含む2万人の学生が大学および大学院で人文、保健科学、科学、ビジネスを学んでいる。

ダニーデンは留学生に温かい安全な都市。学術都市として国際的な知名度も高く、レストランやバー、カフェ、コンサート会場、美術館、博物館、スポーツ施設なども充実している。車で3時間ほど離れたクィーンズタウンでは、スキーやジェットボート、バンジージャンプ、ワイナリー見学などが楽しめる。

(2) プロフィール

大学生数	:	約20,752人 *年によって異なる。
語学研修生数	:	約200人（日本人が15-20%） *年によって異なる。
必要TOEFL点数	:	なし
研修に要する週数	:	16週
週当たりの授業日数	:	5日
研修期間	:	8月初旬～12月上旬
英語研修プログラム	:	各レベルに合った、優れた数多くの英語研修プログラムが用意されている。
キャンパス概要	:	世界25カ国以上から集まった学生が共に学んでいる。学生証の提示により、学内の情報サービス、24時間アクセス可能なコンピュータ施設、学生医療サービス、クラブやサークル、カフェなどを利用することができる。
正規授業受講可否	:	聴講は可能だがIELTS5.0、TOEFL500以上が望ましい。
ボランティア活動	:	あり。（週2時間程度）

(3) 宿泊設備

ホームステイ	:	大学側が手配
ホームステイの食事	:	1日3食（週21食）

(4) 所在地（町、市）の情報

市の人口	:	ダニーデン市、13万人
最寄りの飛行場	:	ダニーデン国際空港
最寄りの大都市	:	ダニーデン市
気候	:	研修プログラムの開始時期は冬の終わりに当たる
生活費	:	中程度
近隣観光スポット	:	ダニーデン市のスポットは http://www.insidersdunedin.co.nz/attractions-insider?offset=1482353213449 に詳しい。市外では、首都クィーンズタウン、歴史的な街オマルーなどがお勧めである。

Canada and the United States

カナダ及びアメリカ合衆国



Canada

- (5) University of Victoria
- (6) Simon Fraser University
- (7) University of the Fraser Valley
- (8) Thompson Rivers University
- (9) University of New Brunswick

United States of America

- (10) Sonoma State University
- (11) San Jose State University
- (12) California State University at San Marcos
- (13) San Diego State University
- (14) Arizona State University

5. ビクトリア大学 (University of Victoria)

English Language Centre
3800 Finnerty Road/PO Box 1700 STN CSC, Victoria,
British Columbia V8W 2Y2 Canada
Phone: 1-250-721-8950 Fax: 1-250-721-6276
Contact : Jackie Prowse, Director

(1) 紹介

ブリティッシュコロンビア州は、カナダで最も気候が温暖で、1年を通して過ごしやすい。ビクトリアは西海岸にある島で、バンクーバーとは飛行機、フェリーなどで結ばれている。昔、英国に支配されていたため、チューダー調やビクトリア調の建物が並び、英国の趣を残す。“庭の街”(City of Gardens)としても知られ、文化・娯楽施設や活発な商業地域を持つ州都である。ビクトリア大学はカナダ5大学のひとつに数えられ、広大な敷地内にあらゆる施設を備えている。アジア太平洋地域の研究が盛んなことで知られる。

(2) プロフィール

大学生数	: 約17,000人 *年によって異なる。
語学研修生数	: 約400人 (日本人が約30%) *年によって異なる。
必要TOEFL点数	: なし
研修に要する週数	: 16週 (4週と12週の2期に分かれる)
研修期間	: 8月初旬~12月初旬
英語研修プログラム	: 各レベルに合った英語研修プログラムが用意されている。クラスの規模は小さい。学生はアジア、南米、ヨーロッパ諸国から来ている。
キャンパス概要	: 街の中心部から徒歩15分でビーチへも歩いていける距離にある。公園のように美しい敷地内には、図書館、コンピュータ・ラボ、運動施設 (ジム、体育館、屋内外プール、テニス・スカッシュコート等)、レストラン、旅行代理店、売店、郵便局、映画上映室を備えた学生会館がある。
正規授業受講可否	: IELTS6.5以上で聴講可能 (有料)。
ボランティア活動	: あり。

(3) 宿泊設備

学生寮	: サマーコース (前期) で利用
学生寮の食事	: 週21食
ホームステイ	: 後期に利用。大学側が手配
ホームステイの食事	: 週21食

(4) 所在地 (町、市) の情報

市の人口	: ビクトリア市-約86,000人
最寄りの空港	: ビクトリア空港 (バンクーバーから乗り継ぎ)
最寄りの大都市	: バンクーバー市
気候	: カナダの中では温暖
生活費	: 日本の平均的な物価に比べて安め
近隣観光スポット	: ブッチャート・ガーデン、ゴールドストリーム国立公園 (秋には産卵のため川を上るサーモンが産卵を見ることができる)、BC王立美術館、ビーコン・ヒル公園、カヤック、鯨ウォッチング

6. サイモン・フレーザー大学 (Simon Fraser University)

English Language & Culture Program

515 West Hastings Street, Vancouver, British Columbia V6B 5K3 Canada

Phone: 1-778-782-5123 Fax: 1-778-782-7965

Contact : Judy Shabtai, Program Coordinator

(1) 紹介

バンクーバーはカナダ西海岸に位置する、海と山に囲まれたカナダ第3の都市である。多様な人種、文化を有する都市生活とアウトドアライフを楽しめる魅力的な街である。

(2) プロフィール

大学生数	:	約28,000人 *年によって異なる。
語学研修生数	:	約150人 (日本人が8%) *年によって異なる。
必要TOEFL点数	:	450 (望まれる点数であり、必須ではない)
研修に要する週数	:	16週 (12週と4週の2期に分かれる)
週当たりの授業日数	:	5日
研修期間	:	9月上旬～12月下旬
英語研修プログラム	:	各レベルに合った英語研修プログラムが用意されている。学生はアジア、南米、ヨーロッパ諸国から来ている
キャンパス概要	:	「ハーバーセンターキャンパス」と「バーナビーマウンテンキャンパス」の2カ所あり、本学の研修生はバンクーバー市内にある「ハーバーセンターキャンパス」に通うことになる。メインキャンパスである「バーナビーマウンテンキャンパス」の建物は歴史的価値があり、これまで何度も建築関係の賞を受賞している。研修生はここにある図書館、ジム、プール等を利用できるが、距離が離れているため現実的には定期的な利用は難しい。
正規授業受講可否	:	不可
ボランティア活動	:	なし。

(3) 宿泊設備

ホームステイ	:	First Choice International Placement 社によって手配される。
ホームステイの食事	:	週14食

(4) 所在地 (町、市) の情報

市の人口	:	バンクーバー市域—約200万人
最寄りの空港	:	バンクーバー国際空港
最寄りの大都市	:	バンクーバー市—63万人
気候	:	カナダの中ではもっとも温暖
生活費	:	カナダの中では高め
近隣観光スポット	:	スタンリー公園サイクリング、ホッケーゲーム観戦、ペイントボール、他

7. フレーザー・バレー大学 (University of the Fraser Valley)

International Education Department

33844 King Road, Abbotsford, British Columbia, V2S 7M8 Canada

Phone: 1-604-854-4544 Fax: 1-604-855-7153

Contacts: Kara Bertram/Jag Deal

(1) 紹介

大学があるアボッツフォードはバンクーバーから東に約1時間30分、ブリティッシュコロンビア州南部の地方都市である。米国との国境に近い。フレーザー・バレー大学は5つのキャンパスに分かれ、本学の研修はその中のアボッツフォードキャンパスで行われる。小規模ではあるが、豊かな自然に恵まれた静かで安全な町にある大学である。

(2) プロフィール

- 大学生数 : 約11,000人 *年によって異なる。
語学研修生数 : 約250人(日本人が10-15%) *年によって異なる。
必要TOEFL点数 : 特に制限はないが、初級レベルと判断された場合には参加できない。
以下のプログラムへの参加には条件があるため、事前の相談要。
大学基礎レベル1 : 500
大学基礎レベル2 : 550 *年度によって変わる場合がある。
- 研修に要する週数 : 15週
週当たりの授業日数 : 5日
研修期間 : 9月初旬~12月中旬
英語研修プログラム : ELS, Foundations, Academic の3レベルに分かれる。リーディング、語彙、会話及び聞き取り、ライティング及び文法の他に選択科目があり、「カナダの文化とコミュニケーション」、「インターアクティブ・コミュニケーション」、「オンライン・リーディング」、「映画」、「発音」等から2科目を選ぶことができる。語学力によって6段階にレベル分けされる。週18時間から24時間の授業の他にインデペンデント・スタディーが加わる。
*年度によって変わる場合があるので、ホームページでチェックする必要あり。
- キャンパス概要 : アボッツフォード、チリワック、他5つのキャンパスに分かれている。
- 正規授業受講可否 : 英語レベルによって可能。
ボランティア活動 : あり。(但し、正規学生が中心)

(3) 宿泊設備

- ホームステイ : Canada Homestay Network 社によって手配される。
ホームステイの食事 : 週14食

(4) 所在地(町、市)の情報

- 市の人口 : アボッツフォード市-約14万人、チリワック市-約9万人
最寄りの空港 : バンクーバー空港
最寄りの大都市 : バンクーバー市(63万人、西に80キロ)
気候 : 温暖、冷涼
生活費 : 日本の平均的な物価に比べて安め
近隣観光スポット : <http://www.tourismabbotsford.ca/> 参照

8. トンプソン・リバーズ大学 (Thompson Rivers University)

English as a Second Language Program

900 McGill Road/PO Box 3010, Kamloops

British Columbia, V2C 5N3 Canada

Phone: 1-250-371-5835 Fax: 1-250-828-5140

Contacts: Dian Henderson, ESL Chairperson and Rika Kimura, International Student Advisor

(1) 紹介

大学があるカムループ市は、バンクーバーと世界的に有名なスキー場のあるバンフの間に位置する人口約8万人の小さな町である。治安が良く、人々は親切で、語学研修生には過ごしやすい町である。

(2) プロフィール

大学生数	:	約14,000人*年によって異なる。
語学研修生数	:	約250人(日本人が10%) *年によって異なる。
必要TOEFL点数	:	なし
研修に要する週数	:	16~17週
週当たりの授業日数	:	5日
研修期間	:	8月下旬 ~ 12月中旬
英語研修プログラム	:	5レベルに分かれる。各レベルに合った英語研修プログラムが用意されている。クラスの規模は小さい。
キャンパス概要	:	約10万平方メートルの広大な構内にはあらゆる施設が整っている。学生会館、運動施設、図書館、コンピュータ・ラボ、レジャー施設等があり、学内で十分に学び、楽しめる。
正規授業受講可否	:	IELTS5.5以上で1コマ、6.0以上で3コマ受講可能。
ボランティア活動	:	あり。

(3) 宿泊設備

ホームステイ	:	大学側が手配
ホームステイの食事	:	週21食

(4) 所在地(町、市)の情報

市の人口	:	カムループ市-約9万人
最寄りの空港	:	カムループ空港(バンクーバーから乗り継ぎ)
最寄りの大都市	:	バンクーバー市(飛行機で50分、車で4時間)
気候	:	寒冷(北海道程度)、湿度が低い
生活費	:	日本の平均的な物価に比べて安め、バンクーバーより安め
近隣観光スポット	:	サンピークススキー場、ウェルス・グレイ・プロビンシャル公園、シャスワック湖、ケロウナ、バンクーバー、バンフ、他

9. ニュー・ブランズウィック大学 (University of New Brunswick)

English Language Programme

College Hill/PO Box 4400, Fredericton, New Brunswick E3B 5A3 Canada

Phone: 1-506-453-3564 Fax: 1-506-453-3578

Contacts: Colleen Meagher, Director, Shawna Kirkbride, International Marketing Administrator

(1) 紹介

大学があるニュー・ブランズウィック州の州都であるフレデリクトン市は、300年前に出来た古い街で、歴史的価値の高い建物が多く残っている。ゆったりと流れる幅広いセント・ジョン川と、それを見下ろすような丘は、なだらかで豊かな木々に覆われ、大学を含めた街全体に特別な趣きを与えている。「赤毛のアン」の作者であるL. M. モンゴメリーの住んだプリンス・エドワード島や、今は博物館になっているモンゴメリーの住居は日帰りで行ける距離にある。市内では英語だけでなく、フランス語を話す人も多く見かける。

(2) プロフィール

大学生数	: 約1,400人*年によって異なる。
語学研修生数	: 約230~360人(32%が日本人)*年によって異なる。
必要TOEFL点数	: なし
研修に必要な週数	: 16週
週当たりの授業日数	: 原則5日(土曜日に授業が行われる場合もある)
研修期間	: 9月上旬~12月中旬
英語研修プログラム	: elementary から high advanced まで9レベルに分かれる。少人数制の超集中型プログラムであり、学生の語学能力は飛躍的に伸びる可能性がある。
キャンパス概要	: ニュー・ブランズウィック大学は1785年に設立され、北米大陸に現存する最も古い公立大学の1つである。古代美術の講義棟はカナダで現在でも使用されている大学の建物としては最も古く、歴史的町並みと川を見下ろす丘の上に立っている。特に秋の紅葉は素晴らしく、学生や大学を訪れる人たちの大きな楽しみの一つとなっている。
正規授業受講可否	: 英語レベルによって聴講可能。教員がケースバイケースで対応する。
ボランティア活動	: あり。

(3) 宿泊設備

ホームステイ	: 大学側が手配
ホームステイの食事	: 週14食

(4) 所在地(町、市)の情報

市の人口	: フレデリクトン市-約58,000人
最寄りの空港	: フレデリクトン空港(モントリオール国際空港またはハリファックス空港経由)
最寄りの大都市	: モントリオール市(521マイル) 米国、ボストン市(408マイル)
気候	: 秋は肌寒い程度だが、12月(11月からの場合もある)は降雪が多く、非常に寒い。
生活費	: 中位から上
近隣観光スポット	: フレデリクトンで秋に特にお勧めは、キングス・ランディング・ヒストリカル・セトルメント、ハーベスト・ジャズ&ブルース・フェスティバル

10. ソノマ州立大学 (Sonoma State University)

Sonoma State American Language Institute (SSALI)
1801 East Cotati Avenue, Rohnert Park, CA 94928-3609
Phone: 1-707-664-2742 Fax: 1-707-664-2749
Contacts: John H. Nardine & Flannery Norton, Program Coordinators

(1) 紹介

ソノマ市はカリフォルニアワインの産地として有名である。ソノマ州立大学は総合大学であり、バラエティーに富んだ教育内容を誇る。自分で考える力をつけさせること、コンピュータをマスターさせることを大学の大きな目標としている。TOEFL(iBT) のスコアが高い学生(61点以上)は、正規科目の履修が可能である。

(2) プロフィール

- 大学生数 : 約10,000人*年によって異なる。
語学研修生数 : 約30~40人 *年及び時期によって異なる。
必要TOEFL点数 : なし。但し、正規科目履修(ブリッジプログラム)希望者は、TOEFL iBT 61点以上が必要である。ブリッジプログラムは本学研修プログラムとは異なった時期にスタートし、年度によって内容が変わるため、希望者は事前に相談のこと。
- 研修に要する週数 : 15週
週当たりの授業日数 : 5日
研修期間 : 8月上旬~12月中旬
英語研修プログラム : 学生数によるが通常3レベルに分かれる。各レベルに合った優れた英語研修プログラムが用意されている。
- キャンパス概要 : 約90万平方メートルの広さを誇る美しいキャンパスは、ソノマ丘陵のふもとに位置する。図書館、運動施設、学生会館等の施設も整っている。
- 正規授業受講可否 : 教員の判断で聴講可能。
ボランティア活動 : あり。20時間のサービスマスターリング(ボランティア活動)が組み込まれている。

(3) 宿泊設備

- ホームステイ : International Student Placement (ISP) 社が手配
ホームステイの食事 : 週16食

(4) 所在地(町、市)の情報

- 市の人口 : ロナートパークー約41,000人
最寄りの空港 : サンフランシスコ空港
最寄りの大都市 : サンフランシスコ(車で45分)、バスで2時間
気候 : 温暖
生活費 : 宮崎と同程度
近隣観光スポット : ナパ・ワイナリー、アームストロング州立公園、サンフランシスコ、他

11. サンノゼ州立大学 (San Jose State University)

International Gateways (IG)
San Jose State University
Industrial Studies Building, Room 227
San Jose, CA 95192-0215
Phone: 1-408-924-7065 ben.soller@sjsu.edu
Contact: Ben Soller, Academic Coordinator

(1) 紹介

1975年以来、International Gateways は学術的、実務的、キャリア上のニーズに応える優れた英語教育を提供している。そのカリキュラムには、直にアメリカ文化を体験するためのフィールドトリップなどの様々な活動が組み込まれ、学生にとってやりがいのある教育内容となっている。サンノゼの気候は、一年を通して過ごしやすい、穏やかな気候であり、平均して300日以上晴天に恵まれる。魅力的なサンフランシスコやバークリー、驚くほど美しいビーチのあるサントクルーズやカーメルは、サンノゼ大学キャンパスからすべて一時間以内のところに位置している。

(2) プロフィール

- 大学生数 : 約32,000人 *年によって異なる。
- 語学研修生数 : 約150人 (日本人は約6-10%) *年によって異なる。
- 必要TOEFL点数 : なし。TOEFL iBT 75点以上の学生には正規授業を受講する機会が与えられる可能性がある。希望者は早めに相談のこと。
- 研修に要する週数 : 17週
- 週当たりの授業日数 : 5日
- 研修期間 : 8月中旬~12月中旬
- 英語研修プログラム : 100-800の8レベルに分かれる。International Gateways 集中英語プログラムはシリコンバレーの中心部にある大学キャンパスで行われる。英語学習者のニーズに合わせた様々なプログラムが提供され、英語のスキルアップや様々なアメリカ文化を体験するためには理想的な大学と言える。
- キャンパス概要 : サンノゼ州立大学は、1857年に初の公立の高等教育機関として西海岸に設立された、歴史のある大学である。キャンパスはシリコンバレーの中心部に位置し、これまで、特に工学、科学、ビジネスの分野で多くの優秀な卒業生を輩出している。
- 正規授業受講可否 : TOEFL iBT 75以上で受講可能(有料)。
- ボランティア活動 : 少数あり。

(3) 宿泊設備

- ホームステイ : International Student Placement (ISP) 社が手配
- ホームステイの食事 : 週14食

(4) 所在地 (町、市) の情報

- 市の人口 : サンノゼー約103万人
- 最寄りの空港 : サンノゼ国際空港、サンフランシスコ空港
- 最寄りの大都市 : サンフランシスコ約150万人
- 気候 : 冬は温暖、夏は暖かい
- 生活費 : 日本よりもやや高い
- 近隣観光スポット : グーグル、アドビ、アップル、フェイスブックなど IT 企業が立ち並ぶ街、スタンフォード大学、サンフランシスコ、モントレイ、サントクルーズ、他

12. カリフォルニア州立大学サンマルコス校 (California State University San Marcos)

American Language & Culture Program (ALCI)

333 South Twin Oaks Valley Road, San Marcos, CA 92096-0001

Phone: 1-760-750-3200 Fax: 1-760-750-3779

Contact: Grant Parsons, Director, Keseniya Gregory, Associate Director, Junko Miyoshi Sweeney, Representative for Japan

(1) 紹介

大学があるサンマルコス市は、サンディエゴ市街から約50キロの地方都市で、サンマルコス丘陵地帯に位置する。サンディエゴ動物園や、ディズニーランド、サンファン・カピストラーノ伝道所等の観光名所や、ビーチ、山岳地帯、砂漠などへも車で2時間程度で行ける。同大学は在学生の97%がカリフォルニア州出身。地域密着型の大学と言える。

(2) プロフィール

大学生数	:	約17,000人 *年によって異なる。
語学研修生数	:	約120人 (日本人が約20%) *年によって異なる。
必要TOEFL点数	:	なし。
研修に要する週数	:	16週
週当たりの授業日数	:	5日 (金曜日は休みの場合もある)
研修期間	:	8月中旬~12月初旬
英語研修プログラム	:	5レベルに分かれる。コミュニケーション、アメリカ文化、集中アカデミック準備プログラム等のプログラムがあり、授業は週18時間~25時間。会話のパートナーとしてサンマルコス大学の学生が付く。高い英語力を持った学生には、正規の授業科目受講の機会が提供される可能性がある。
キャンパス概要	:	1989年創立の新しい大学である。建物や施設も新しい。サンディエゴ郊外に位置する。
正規授業受講可否	:	オリエンテーションでのレベル分けテストレベル4-5で可能。
ボランティア活動	:	あり。

(3) 宿泊設備

ホームステイ	:	Homestay Services Internationalによって手配される。
ホームステイの食事	:	週14食

(4) 所在地 (町、市) の情報

市の人口	:	約97,000人
最寄りの空港	:	サンディエゴ空港(車で50分)
最寄りの大都市	:	サンディエゴ~約150万人
気候	:	一般的に温暖。夏季は日差しが強く気温が高いが、乾燥している。
生活費	:	宮崎に比べて若干高め
近隣観光スポット	:	サンディエゴ、シーワールド、サンディエゴ動物園&サファリパーク、バルボア公園、ディズニーランド、ユニバーサルスタジオ、他

13. サンディエゴ州立大学 (San Diego State University)

American Language Institute (ALI)
5250 Campanile Drive, San Diego, CA 92182-1914 USA
Phone: 1-619-594-3644 Fax: 1-619-287-2735
Contact: Barbara Bass, Executive Director

(1) 紹介

最高ランクに入るカリフォルニアの州立大学に学びながら、南カリフォルニアの魅力あふれる生活が楽しめる。サンディエゴはすがすがしい気候、様々な野外活動、健康的なライフスタイルを実現できる都市として、全米で最も住んでみたい都市ベスト10に入っている。山にも海にも近い、恵まれた環境を持つ。ALI (American Language Institute)の規模は大きく、世界中から多くの留学生が英語の勉強に訪れる。英語上級レベルに達した学生には、大学の正規授業を受ける機会が提供される。

(2) プロフィール

大学生数	:	約33,000人 *年によって異なる。
語学研修生数	:	約550人 (日本人が15%) *年によって異なる。
必要TOEFL点数	:	なし
研修に要する週数	:	17週
週当たりの授業日数	:	5日
研修期間	:	8月中旬～12月中旬
英語研修プログラム	:	集中型英語コミュニケーションプログラムとして、多レベル構成のプログラムを持つ。多くの国から学生が来ているが、中でもアジア諸国からの学生が特に多い。
キャンパス概要	:	キャンパスの広さは300エーカーあり、台地の上に位置する。建物はスペイン調である。通常大学に備わっている典型的な設備、例えば学生会館、コンピュータ・ラボ、図書館等に加え、世界的水準のアクアティック・センター (サーフィン、ボート、その他のウォーター・スポーツができる) なども持つ。
正規授業受講可否	:	不可
ボランティア活動	:	あり

(3) 宿泊設備

ホームステイ	:	大学側が手配
ホームステイの食事	:	週14食

(4) 所在地 (町、市) の情報

市の人口	:	サンディエゴ市 (全米第8番目の都市) ー約142万人
最寄りの空港	:	サンディエゴ国際空港
最寄りの大都市	:	ロサンゼルス南端まで車で2時間半
気候	:	温暖
生活費	:	中位から比較的高い程度
近隣観光スポット	:	ファッション・バレー・モール、バルボア公園、シーワールド、サンディエゴ動物園、サファリパーク、他

14. アリゾナ州立大学 (Arizona State University)

American English & Culture Program (AECP)
PO Box 873504, Tempe, AZ 85287-3504, USA
Phone: 1-480-965-2376 Fax: 1-480-965-8529
Contact: Dianna Lippincott, Claire McLaughlin

(1) 紹介

アリゾナ州はカリフォルニア州とメキシコの間位置し、グランドキャニオンとソノラン砂漠で有名である。1年のうち300日は晴天という典型的な砂漠気候。テンペ市は小さな街で、「太陽の谷(The Valley of the Sun)」、もしくは大フェニックスメトロポリタン地域として知られている。大学はレストラン、カフェ、映画館などが軒を並べる大通りに面する。

(2) プロフィール

- 大学生数 : 約51,000人 *年によって異なる。
語学研修生数 : 約200人(日本人が20%) *年によって異なる。
必要TOEFL点数 : なし。但し、500点以上の学生は、ブリッジコースという大学入学予備コースで履修できる可能性がある。
- 研修に要する週数 : 17週
週当たりの授業日数 : 5日
研修期間 : 8月中旬～12月中旬
英語研修プログラム : アメリカ英語&文化プログラム(AECP)。6段階に分かれており、1クラス原則15人以下である。週21コマで課外活動も盛んである。
- キャンパス概要 : 1885年設立。広大な公園のようなキャンパスは、様々な種類の樹木、花、サボテンに囲まれており、実際に国立植物園としても有名である。施設としては、24時間開館の図書館や240台以上設備しているコンピュータ施設のほか、学生会館にはレストラン、コンビニエンスストア、ビリヤード場やボーリング場もある。レクリエーションセンターには、ジム、屋外プール、ラケットボールコート、テニスコート、サッカーやソフトボール用運動場、バレーボールコート等がある。
- 正規授業受講可否 : TOEFL iBT 57以上で3単位まで可能。
ボランティア活動 : あり

(3) 宿泊設備

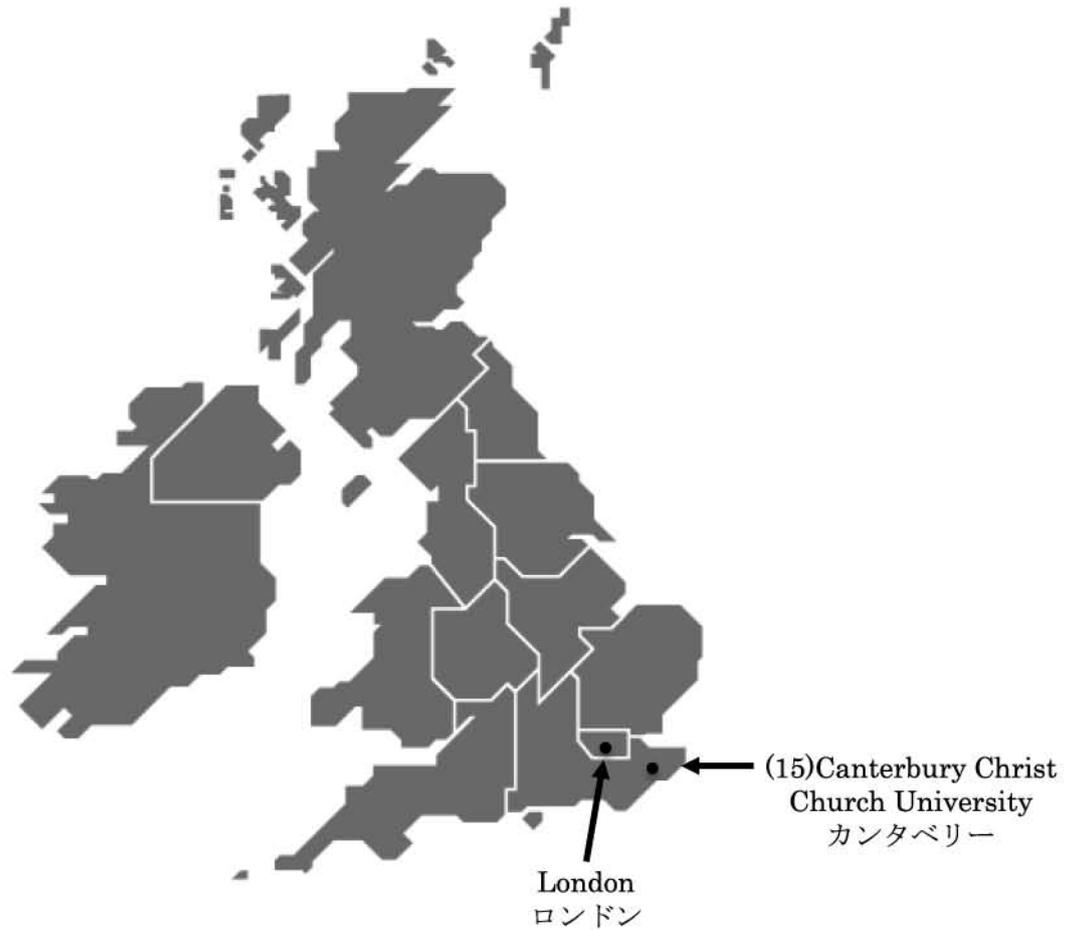
- ホームステイ : OvECS, Ltd.社によって手配される。
ホームステイの食事 : 週14食

(4) 所在地(町、市)の情報

- 市の人口 : テンペ市-約19万人
最寄りの空港 : スカイハーバー国際空港(車で15分)
最寄りの大都市 : フェニックス-人口130万人(車で30分)
気候 : 晴天の日が多く乾燥している。
生活費 : 日本の平均的な物価よりも若干安め
近隣観光スポット : 楽器博物館、デザート植物園、フェニックス・ダウンタウン(プロ野球やバスケットボールゲーム観戦、美術館、レストラン、ショッピング等)、大学主催のアクティビティーもあり。

England

イギリス



(15) Canterbury Christ Church University

15. カンタベリー・クライスト・チャーチ大学 (Canterbury Christ Church University)

General English Language Programme
North Holmes Road, Canterbury, Kent, CT1 1QU UK
Phone: 44-1227-767700 Fax: 44-1227-470442
Contact: Mark Hall, International Partnerships and Projects Manager

(1) 紹介

英国南東部の歴史ある街カンタベリーにあり、ロンドンからは列車で東に2時間、イギリス海峡から1時間以内のところに位置する。この街には世界遺産となった歴史的名所が3箇所（11世紀に建造されたカンタベリー大聖堂、6世紀建造のセント・オーガスティン大修道院、同じく6世紀建造のセント・マーチン教会）あるほか、中世の建造物が数多く残っており、町全体が歴史の香りが漂うたたずまいを見せている。

(2) プロフィール

大学生数	:	約14,000人 *年によって異なる。
語学研修生数	:	夏期:約80名、秋期:約60名 (日本人が25%) *年によって異なる。
必要TOEFL点数	:	なし
研修に必要な週数	:	17週
研修期間	:	8月下旬~12月下旬
英語研修プログラム	:	リスニング、スピーキング、リーディング、ライティング、ポキャブラリー、グラマーに加え、選択科目として、地域社会及び英国研究、歌、ドラマ、ビデオ制作、映画研究、雑誌編集、文学、時事研究等がある。
キャンパス概要	:	こぢんまりとした近代的なキャンパスである。セント・オーガスティン大修道院跡に隣接している。イングリッシュランゲージプログラムの建物は18世紀の歴史的な建造物である。
正規授業受講可否	:	不可
ボランティア活動	:	あり

(3) 宿泊設備

ホームステイ	:	大学側が手配
ホームステイの食事	:	週14食

(4) 所在地 (町、市) の情報

市の人口	:	カンタベリー市-55,000人
最寄りの空港	:	ヒースロー空港 (キャンパスまで列車で1時間半から2時間)
最寄りの大都市	:	ロンドン
気候	:	温暖、多湿、曇りがち
生活費	:	平均的な日本の物価と同程度
近隣観光スポット	:	ホイットスターブル、ドーバー城、リーズ城、ロンドン、他

令和元 (2019) 年度海外研修先大学諸情報リスト
Important Information Regarding Study Abroad Sites 2019

University	Program/Location	Contact Person(s)	Homestay
University of Victoria (UVic)	English Language Centre (ELC) Division of Continuing Studies University of Victoria Victoria, BC, Canada V8W 2Y2 Tel: 250-721-8950 Fax: 250-721-8774 https://continuingstudies.uvic.ca/elc/	1) Dr. Jacqueline Prowse Director Email: jkprose@uvic.ca 2) Christa Kutzner Registration Services Email: christak@uvic.ca	<UVic Homestay Program> Phone: 250-472-4433 Rent: \$950/month including 3 meals a day and WIFI. ※ Students will pay the first homestay rent to their host family upon arrival. ※ Payment will then be made every month on the same date. Rent for dormitory has been paid by MIC.
Thompson Rivers University (TRU)	English as a Second/Additional Language TRU World (International Building=IB, 3rd floor, Office #3018) Thompson Rivers University 805 TRU Way, Kamloops, BC, V2C 0C8, Canada Tel: 250-371-5835, Fax: 250-828-5140 https://www.tru.ca/programs/esl.html	1) Dian Henderson ESL Chairperson Email: dhenderson@tru.ca 2) Larry Peatt Email: lpeatt@tru.ca 3) Rika Kimura International Student Advisor Email: rkimura@tru.ca	<TRU Housing Department> Rent: 875/month including 3 meals a day and WIFI. ※ Students will pay the first homestay rent to their host family upon arrival. ※ Payment will then be made every month on the same date.
University of New Brunswick (UNB)	English Language Programme (ELP) College of Extended Learning University of New Brunswick P.O. Box 4400 Fredericton, NB E3B 5A3 Canada Tel: 506-453-3564 Fax: 506-453-3578 http://www.unb.ca/ce/english/	1) Colleen Meagher Director Email: ELP@unb.ca 2) Shawna Kirkbride International Marketing Administrator Email: skirkbri@unb.ca	<UNB Housing Department> Rent: \$252per week including 2 meals a day. ※ One-week fee of 250 is required in advance to reserve the homestay (paid by MIC). ※ At the beginning of each month, students pay the homestay fees to ELP. ※ \$252 homestay reservation fee – 100% applied to the final week of payment.

<p>University of the Fraser Valley (UFV)</p>	<p>ELS /University Foundation Program University of the Fraser Valley 33844 King Rd., Abbotsford, BC V2S 7M8 Tel: 604-854-4544 http://international.ufv.ca/study-in-canada/es/</p>	<p>1) Kara Bertram Global Engagement Manager Email: kara.bertram@ufv.ca 2) Jag Deol Study Abroad Coordinator Email: jag.deol@ufv.ca</p>	<p><Canada Homestay Network> 1031 St. David, Victoria, British Columbia V8S 4Y7, Canada Contact: Melody Vouriot, Regional Director Email: mvouriot@canadahomestaynetwork.ca Tel: 250-412-3813 Rent: \$895/month, \$38/night, \$325 placement fee, \$500 deposit (refundable upon departure)</p>
<p>Simon Fraser University (SFU)</p>	<p>English Language & Culture Program Simon Fraser University, Lifelong Learning 515 West Hastings Street, Vancouver, British Columbia V6B 5K3, Canada Tel: 778-782-5123 Toll free: 1-844-782-8877 Fax: 778-782-7965 http://www.sfu.ersitya/elc.html</p>	<p>1) Judy Shabtai Program Coordinator, Tel: 778.782.5123 ext. 2-5123 Email: jshabtai@sfu.ca</p>	<p><First Choice International Placement Inc.> Contact 1): Zuzana Gombikova, College/University Registrar Email: registrar@myfci.ca Contact 2): Katherine Therrien, Executive Assistant/Bookkeeper Email: katherine@myfci.ca Tel: 604-984-0868 Rent: \$825 per month, \$61 for extra day. ※ Homestay rent for the entire period of stay has been paid by MIC.</p>
<p>San Diego State University (SDSU)</p>	<p>American Language Institute (ALI) College of Extended Studies 5250 Campanile Drive San Diego, CA 92182-1914 Tel: 619-594-4144 Fax: 619-287-2735 https://ali.sdsu.edu/</p>	<p>1) Barbara Bass Executive Director Email: barbara.bass@sdsu.edu</p>	<p><OvECS Ltd.> 625 N. Gilbert Rd., Suite 202 Gilbert, AZ 85234 Tel: 480-633-8191 Fax: 480-633-8193 Contact: Tracy Howerton (Tel: 360-261-1581) Email: ovecs.Homestay@gmail.com Rent: \$865 per 4 weeks and daily rate, \$29 ※ Homestay rent for the first 4 weeks has been paid by MIC. ※ From the 2nd payment for another 4 weeks, students need to mail their homestay rent to OvECS. Due 9/12, 10/10, 11/7: \$865 each time Due 12/5: \$865 if a full 4 week-stay,</p>

			<p>or, \$31/day if the stay is less than 4 weeks.</p> <p>※ Orientation will be given to the students on how to send the homestay rent to OvECS.</p>
<p>California State University San Marcos (CSUSM)</p>	<p>American Language and Culture Institute (ALCI) 333 South Twin Oaks Valley Road San Marcos, CA 92096-0001 Tel: 760-750-3200 Fax: 760-750-3779 alci@csusm.edu http://www.csusm.edu/global/alci/</p>	<p>1) Grant Parsons Director Email: gparsons@csusm.edu 2) Keseniya Gregory Associate Director Email: kgregory@csusm.edu 3) Junko Miyoshi Sweeney Email: jmiyoshi@csusm.edu</p>	<p>Homestay Services International P.O.Box402 Spring Valley, CA 91976 Tel: 619-461-4767 Contact: Yoko Furuno homestay@homestayservices.com Jenny Cole (760)715-9553 Rent: \$900 per month ※ Students will pay the homestay fee to their host family upon arrival. ※ Payment then will be made on the same date each month. ※ \$100 refundable security deposit has been paid by MIC.</p>
<p>San Jose State University (SJSU)</p>	<p>International Gateways San Jose State University Student Union - CIES One Washington Square San José, CA 95192-0215 Tel: 408-924-7065 http://igateways.sjsu.edu</p>	<p>1) Ben Soller Academic Coordinator Email: Ben.soller@sjsu.edu</p>	<p><International Student Placement (ISP)> 199 First Street • Suite #305 Los Altos, CA 94022 Tel: 650-947-8879 Contact 1): Jean Ikeda Executive Director Email: jean@isphomestays.com Contact 2): Jackie Ausman Program Coordinator</p>
<p>Sonoma State University (SSU)</p>	<p>Sonoma State American Language Institute (SSALI) 1801 East Cotati Ave. Rohnert Park, CA 94928 USA Tel: 707-664-2742 Tel: 707-664-2738</p>	<p>1) John B. Green Director, Outreach and Recruitment Email: John.green@sonoma.edu 2) Erika Longin</p>	<p><International Student Placement (ISP)> 199 First Street • Suite #305 Los Altos, CA 94022 Tel: 650-947-8879 (緊急 650-450-7662) Contact 1): Jean Ikeda Executive Director</p>

<p>Arizona State University (ASU)</p>	<p>http://www.sonoma.edu Facebook: https://www.facebook.com/ssu.ssali www.sonoma.edu/cie</p>	<p>Email: erica.longin@sonoma.edu 3) Katie O'Brien International Student Coordinator Email: katie.obrien@sonoma.edu 4) John H. Nardine MIC Site Mentor Email: nardine@sonoma.edu</p>	<p>Email: jean@isphomestays.com Contact 2): Janaki Padia Program Manager Email: admin@isphomestays.com Rent: \$1,200/month including 14 meals per week ✳ Homestay rent for the entire period of stay has been paid by MIC.</p>
<p>Arizona State University (ASU)</p>	<p>American English and Culture Program (AIECP) 1711 S. Rural Road, Tempe, AZ 85281 USA Global Launch, Arizona State University PO Box 879701 Tempe AZ 85287-9701 Tel: 480-965-2376 Fax: 480-965-8529 https://learnenglish.asu.edu/</p>	<p>1) Diana Lippincott, Director Email: Dianna.Lippincott@asu.edu 2) Claire McLaughlin, Academic Coordinator Email: Claire.P.McLaughlin@asu.edu</p>	<p><OvECS Ltd.> 625 N. Gilbert Rd., Suite 202 Gilbert, AZ 85234 Tel: 480-633-8191 Fax: 480-633-8193 Contact: Tracy Howerton(Tel: 360-261-1581) Katie Palmer, Senior Director Email: homestay@ovecs.com, ovecs.Homestay@gmail.com \$690/4 weeks, \$25/day ✳ Students will pay 1st 4 weeks of the rent to their host family upon arrival. ✳ Payment will then be made every 4 weeks.</p>
<p>University of New Castle</p>	<p>University of Newcastle Language Center University of Newcastle University Drive, Callaghan NSW 2308, Australia Tel: 61-2-4921-6536 Fax: 61-2-4921-7068 https://www.newcastle.edu.au/international /study-with-us/english-language-and-ielts</p>	<p>1) Michelle Picard Deputy Director of the English Language and Foundation Studies Centre Email: Michelle.Picard@newcastle.edu.au 2) AnChi Baxter Language Centre Senior Administrator & Global</p>	<p><UNC Housing Departement> Rent: \$255 for 16 meals/week with WIFI ✳ The first payment will be for two weeks to cover the first and final week of each homestay. ✳ Payments will then be made weekly thereafter until the final week when no payment is due.</p>

		<p>Experience Manager English Language and Foundation Studies Centre / Academic Division Email: anchi.baxter@newcastle.edu.au</p>	
<p>University of Wollongong</p>	<p>Group Program General English (Study Tours) Building 36 University of Wollongong 2 Northfields Avenue Wollongong NSW 2522 Australia Tel: 61-2-4252-8804 Fax: 61-2-4228-5201 https://www.uowcollege.edu.au/future-students/international/index.html</p>	<p>Nikki Cole, ELICOS Program Manager/ Coco Toh, Admissions & Study Tours Officer Email: coco@uow.edu.au Tel: 61-2-4252-8894</p>	<p><UOW Housing Department> Rent: \$304 per week including 16 meals per week and WIFI, \$42 per day. ※ Homestay rent for the first 4 weeks has been paid by MIC. ※ Payments will then be made every 4 weeks thereafter.</p>
<p>University of Otago</p>	<p>University of Otago Language Centre (UOLC) PO Box 56 Dunedin 9054 New Zealand Tel: 64-3-4795869 http://www.otago.ac.nz/uolcfy/index.html</p>	<p>1) Dr. Paul Baker Academic Manager Email: paul.baker@otago.ac.nz 2) Frances Ross Accommodation Coordinator Email: frances.ross@otago.ac.nz</p>	<p><UOLC Housing Department> Rent: \$40/day including 3 meals ※ Homestay rent for the entire period of stay has been paid by MIC.</p>
<p>The University of Waikato</p>	<p>Waikato Pathways College P.O. Box 1317, Waikato Mall Centre, Hamilton, New Zealand Tel: 64-7858-5600 Fax: 64-7858-5694 http://www.waikato.ac.nz/study/international</p>	<p>1) Dianne Moffitt AEL/CAAE Programme Coordinator Email: dmoffitt@waikato.ac.nz 2) Judith Bogle</p>	<p><WPC Housing Department> Rent: \$4,256 for 16 weeks, \$266 per week, including 3 meals per day and WIFI.</p>

<p>Canterbury Christ Church University (CCCU)</p>	<p>General English Language Programme North Holmes Road Canterbury, Kent, CT1 1QU Tel: 44-1227-767700 Email: international.representatives@canterbury. ac.uk <a href="http://www.canterbury.ac.uk/study-
here/courses/undergraduate/general-
english.aspx">http://www.canterbury.ac.uk/study- here/courses/undergraduate/general- english.aspx</p>	<p>Academic Administrator Email: bogle@waikato.ac.nz 3) Susan Phillipps Business Manager Email: susan.phillipps@waikato.ac .nz</p>	<p><CCCU Housing Department> Rent: £160 per week including breakfast and dinner 7 days a week. ※ Homestay rent for the entire period of stay has been paid by MIC.</p>
		<p>1) Dina Norris Email: dina.norris@canterbury.ac. uk 2) Mark Hall Email: mark.hall@canterbury.ac.u k <a href="mailto:language.school@canterbur
y.ac.uk">language.school@canterbur y.ac.uk</p>	

THE MIYAZAKI BANK,LTD.
CERTIFICATE OF BALANCE

Telephone: + 81-985-73-2323
Facsimile: + 81-985-30-0010
SWIFT: MIYAJPJT

In accordance with your request, we certify that our records indicate of the following balance(s)
to your credit/outstanding loan(s) in your name with us at the close of business on 12-May-2019

Type of Account	Account No.	Balance	Remarks
ORDINARY DEPOSIT		JPY 2,060,485.00 @ 109.86	USD 18,755.56
NOTHING AS FOLLOWS			@
			@
			@
			@
			@

No correction in figures

ADDRESS:

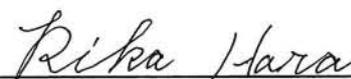
13-May-2019

Date of Certificate

NAME:

 MIYAZAKI BANK

SADOARA Branch



(Authorized Signature)

V. 参考資料－4

残高証明書—保護者名義口座の場合

Certification of the Balance of Deposit
(貯金残高証明書)

Date: May 8, 2019

To: [Redacted]

Address: [Redacted]

I, the undersigned, certify that the below mentioned savings deposit balances are correct, as of May 7, 2019.

(2019年5月7日における貯金の残高は、下記のとおりであることを証明いたします。)

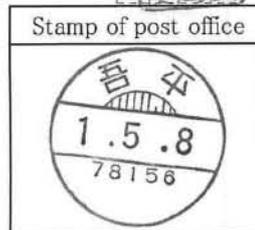
These funds will be used in support of

; 学生の名前 [Redacted]

Postmaster of Aira Post Office [Stamp]

Signed: 口座名義人の署名 [Redacted]

Date: May 7, 2019



【 Investigated account 】

Name of account holder: [Redacted]

【 Content of proven Deposit/Savings 】

Type of deposit/savings (貯金の種類)	Code Number of Savings Passbook/Certificates (記号番号)	Balance of deposit or Amount of deposit (残高又は元金)	Remarks (備考)
Ordinary Savings	[Redacted]	¥1,820,350 (16,371.52 US dollars)	

- 注1 Corrections will not be made to "Balance of deposit or Amount of deposit" of this certification.
(この証明書の金額は訂正いたしません。)
- 注2 Postal Collection Savings, Postal Teigaku Savings, Postal Time Savings, Postal Housing Collection Savings and Postal Education Collection Savings(including savings that have been Postal Ordinary Savings throughout savings period) are under the management of the Independent Administrative Agency Management Organization for Postal Savings, Postal Life Insurance and Post Office Network. JAPAN POST BANK Co.,Ltd. issues this certification by consignment from the Independent Administrative Agency Management Organization for Postal Savings, Postal Life Insurance and Post Office Network.
(積立郵便貯金、定額郵便貯金、定期郵便貯金、住宅積立郵便貯金及び教育積立郵便貯金(預入期間等の経過により通常郵便貯金となっているものを含みます。))につきましては、独立行政法人郵便貯金簡易生命保険管理・郵便局ネットワーク支援機構が管理する郵便貯金です。ゆうちょ銀行は、同機構からの委託によりこの証明書を発行しています。)
- 注3 This amount is converted from yen to US dollars based on our cash-selling rate of 1:00PM May 8, 2019
(2019年5月8日午後1時現在の外貨販売の換算割合により換算したものです。)

キャッシュパスポートプラチナとは？

トラベラーズチェックの安全性やクレジットカードの利便性を兼ね備えた、『**海外専用のトラベルプリペイドカード**』です。



事前に入金（チャージ）していただき、そのチャージ分のみご利用いただけます。



★交通系ICカードやwaonに類似したものです。

★ 簡単

● 未成年の方でもお申込みできます。 プリペイドカードなので、審査や年齢制限はございません。

♥ 安心

● 銀行口座の開設は不要です。 当社の指定口座にお振り込みいただければ入金（チャージ）されます。

💡 便利

● 世界中のMasterCard®加盟店、対応ATMで使えます。

mastercard

2

キャッシュパスポートプラチナご利用方法

世界210以上の国や地域のMasterCard® 対応ATMで現地通貨をお引き出し！
または、MasterCard® 加盟店でキャッシュレスでお支払い！

チャージが完了したら、2通りでご利用いただけます！



mastercard

©2018 Mastercard. Prepaid card distribution.

海外渡航に最適なキャッシュパスポートプラチナ（その1）

1. 学費や学校の店舗でのお支払いに使えます

MasterCard® での決済が可能な学校・店舗であればご利用できるので、大きな金額の支払いもラクラクです。 ※ご利用には限度額があります。



2. 学校内や街中のMasterCard® 対応ATMで、現地通貨が引き出せます

MasterCard® 対応 ATM は、街中はもちろん、学校内でも設置されている場合があります。



3. 使いすぎないプリペイドタイプ

必要な金額だけをあらかじめ入金しておくプリペイドタイプだから、クレジットカードのように使いすぎて支払いに困ってしまう…という心配はありません。



4. お金が足りなくなっても大丈夫

再入金いただく事で簡単に追加チャージが可能です。

5. 非接触決済機能搭載

※コンタクトレスマークのある加盟店ではスピーディーなお支払いが可能になります



©2018 Mastercard. Mastercard and Contactless are trademarks of Mastercard.

海外渡航に最適なキャッシュパスポートプラチナ（その2）

6. 「マイアカウント」「モバイルアプリ」で利用履歴や残高を確認できます

専用ウェブサービス「マイアカウント」「モバイルアプリ」は、24時間365日いつでもご利用いただける無料のサービスです。



7. スペアカードが付いているので、盗難・紛失時も再発行を待つ必要なし！

カード購入時にスペアカードを無料でご用意しますので2枚セットになっています。手元にもう1枚あれば再発行を待つ必要はありません！
また、ICチップによる高度な暗号化技術と暗証番号（PIN）により、二重のセキュリティで守られています。



8. トラブル時はカードサービスが無料で使えます

カードサービスが、24時間365日留学生の方々をサポートいたします。緊急時、または盗難・紛失にあった場合は、至急こちらのサービスまでご連絡ください。



POINT! 簡単・便利・安心の三拍子そろったお財布がわりのカードだから、多くの留学生の方々にご利用いただいております。



©2018 Mastercard. Mastercard and Contactless are trademarks of Mastercard.

VII. 参考資料－6

海外現地SIMカードのご案内



ポイント1 → 渡航前にご契約・受け取りが可能！電話番号も事前にわかります。

ポイント2 → 現地通信会社のサービスを利用する為に現地基準価格！
契約の縛りはありませんので短期から長期まで安心してご利用可能。

ポイント3 → 渡航前から帰国まで日本語でサポート！



海外でSIMカードサービスをご利用いただくには？

SIMロック解除は必ず渡航前におこなひましょう！
一般的に日本で販売されているスマートフォンにはSIMロックがかかっています。
解除する事によって世界中でご利用いただけるようになります。

<SIMロック解除方法>

・大手通信会社で契約されている場合、マイアカウントからSIMロックの解除ができます。

<SIMロック解除条件>

・2015年5月以降のスマートフォン
・契約から101日経過している事(docomoのみ契約からの日数の規定がなくなりました)

* androidご利用の方のみ周波数の確認が必要です。iPhoneとは違いSIMロックの解除をおこなったとしても電波を拾えない可能性がございます。詳しくは海外携帯ICHIBAまで。



到着後ご利用開始

到着後SIMカードを差し替えると
「現地電話番号」「現地プラン」
で空港到着からすぐにご利用いただけます。

日本でご利用中のアプリは現地でも引き続きご利用可能です。
*念の為バックアップを取られる事をお勧めします。



サービス対象国



アメリカ



カナダ



オーストラリア



ニュージーランド



イギリス

各国料金のご案内



アメリカ	
月額料金	\$30～
現地電話番号	あり
国内通話	かけ放題
国内テキストメール	無制限
国際通話	日本宛国際通話付き
インターネット	6GB～
日本語サポート	あり
その他特徴	\$60ならテザリングが可能



カナダ	
月額料金	\$35～
現地電話番号	あり
国内通話	かけ放題
国内テキストメール	無制限
インターネット	2GB～
日本語サポート	あり
その他特徴	テザリング可能

テザリングとは？

テザリングとはスマートフォンをWi-Fiルーターの代わりにしお持ちのタブレット、PCなどへ電波を飛ばしインターネットの利用をすること

各国料金のご案内



オーストラリア 		ニュージーランド 		イギリス 	
月額料金	\$44~	月額料金	¥3,980~	月額料金	¥3,980~
現地電話番号	あり	現地電話番号	あり	現地電話番号	あり
国内通話	かけ放題	国内通話	かけ放題	国内通話	かけ放題
国内テキストメール	無制限	国内テキストメール	無制限	国内テキストメール	無制限
インターネット	5GB~	インターネット	1.25GB~	インターネット	1GB~
日本語サポート	あり	日本語サポート	メール対応	日本語サポート	メール対応
その他特徴	最大70GBネット	その他特徴	超過料金はかかりません	その他特徴	超過料金はかかりません

申し込みの流れ



* 渡航の7日前にお申込みをいただければご自宅へSIMカード/スマートフォンを配送致します。



申し込み手続き	日本のご自宅へ配送	渡航2日前に 電話番号をお知らせ	SIMの差し替え	到着後ご利用開始
				

＜海外携帯ICHIBA Tokyo Office＞ ※ お問い合わせ
 〒150-0034 東京都渋谷区代官山町2-7シャトレ代官山ビル203
 電話番号: 03-3496-5678 メール: info@world-keitai.com
 営業時間: 月曜-金曜 11:00-19:00(土日祝日はお休み)

☎ お問い合わせはこちらまで
03-3496-5678



